



Solaris™ 8 HW 12/02

Sun™ ハードウェアマニュアル (補足)

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054 U.S.A.

Part No. 817-0312-11
2002 年 12 月, Revision A

コメントの宛先: docfeedback@sun.com

Copyright 2002 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054 U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Enterprise, OpenBoot, Sun Enterprise Authentication Mechanism, Sun Fast Ethernet, Sun Quad Fast Ethernet, Xterminal, SunHSI/S, SunHSI/P, SunFDDI, Ultra, Sun MediaCenter, JDK, SunATM, SunScreen, Sun Enterprise SyMON, Power Management, SunVTS, ShowMe TV, Solstice DiskSuite, SunForum, Sun StorEdge, SunSolve, SunSwift, Sun Fire, Starfire, Sun Blade, Netra, Java は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サン・ロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK, OpenBoot, JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。OpenGL® は、米国 Silicon Graphics 社の登録商標です。

Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions set forth in the Sun Microsystems, Inc. license agreements and as provided in DFARS 227.7202-1(a) and 227.7202-3(a) (1995), DFARS 252.227-7013(c)(1)(ii) (Oct. 1998), FAR 12.212(a) (1995), FAR 52.227-19, or FAR 52.227-14 (ALT III), as applicable.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Solaris 8 HW 12/02 Release Notes Supplement for Sun Hardware
Part No: 816-5263-11
Revision A



Adobe PostScript

目次

- 1. 補足情報 1
 - 最新情報について 1
 - このリリースには OEM の内容を未収録 2
 - SunVTS の `env6test` で使用不可のサブテスト (Bug ID 4797430) 2
 - SunVTS の `i2c2test` で発生する可能性のあるエラー (Bug ID 4797539) 2
 - CPU ファンに障害が発生したときに、0 RPM が表示される (BugID 4791240) 2
 - メモリーエラー報告時に、間違ったメモリーバンクが指定される (BugID 4831983) 3
 - 誤った割り込みメッセージが表示される可能性がある (BugID 4761972) 3
 - 別製品のサポート 3
 - サプリメント CD に収録されているマニュアル 4
 - マニュアルページ追補パッケージ 6
 - 64 ビット動作に対応するためのフラッシュ PROM の更新 6
 - Flash PROM Update Multimedia AnswerBook CD は付属しません 7
 - リムーバブルメディアマネージャの問題 7
 - DVD-ROM メディアからの起動を可能にするパッチ 7
 - StarSuite 6.0 を有効にするパッチ 8
 - ヘッドレスシステムの DVD-ROM/CD-ROM ドライブ (BugID 4365497) 8
 - Maintenance Update CD 9

DVD からサプリメント CD の製品をインストールする方法 9

2. サポート中止のご案内 11

Solaris 8 オペレーティング環境でサポートされない製品 11

sun4c アーキテクチャーのシステム 11

SPARCstation Voyager 12

SPARC Xterminal 1 12

今後サポートが中止される製品 12

sun4d サーバー 12

Ethernet Quad ドライバの `qe` と `qec` 12

PC File Viewer 12

ShowMe TV 13

Alternate Pathing マルチパス入出力 13

SunHSI/S、SunFDDI/S、SunFDDI/P、`1e` ドライバ 13

トークンリングネットワークドライバ 13

SPC ドライバ 13

Sun4m プラットフォームグループ 13

3. 制限事項 15

2 GB を超えるルートパーティションからの起動 (BugID 1234177) 15

デフォルトで複数のネットワークドライバがインストールされる 16

シリアル・パラレルコントローラドライバ — DR がサポートされない
(BugID 4177805) 16

32 ビットモードでの Sun Enterprise 10000 システムの起動 (Bug ID
4348354) 16

一部のDVD および CD-ROM ドライブで Solaris を起動できない
(BugID 4397457) 17

高い負荷がかかると、FDDI がハングアップすることがある (BugID 4485758、
4174861、4486543) 17

`ipc`、`vm`、`ism` ストレスを実行しているときに DR コマンドが `rcm_daemon` の待
機中にハングアップする (BugID 4508927) 18

画面ロック中に Stop-A を押すとモニターがブランクになる (BugID 4519346)	18
IFB ドライバが読み込み解除された後、U コードが再読み込みされない (BugID 4532844)	18
高い負荷がかかると、QFE によってシステムがパニック状態になる場合がある (BugIDs 4510631、4517740)	19
SunScreen SKIP 1.1.1 に関する制限事項	19
ISDN — 32 ビットモードでのみサポートされる	20
SunVTS 5.1 Patch Set 1 (PS1) の問題	20
このリリースの新機能	20
オンラインヘルプマニュアル	21
『SunVTS 5.1 テストリファレンスマニュアル』の訂正	21
インストール時に予想される問題	22
実行時に予想される問題	24
ShowMe TV 1.3 に関する注意事項	25
PCMCIA に関する注意事項	25
既知の障害	25
PC file viewer に関する注意事項	26
/opt ディレクトリへのインストールが必須	26
既知の障害	26
マニュアルの訂正	27
MPxIO マニュアルへの参照	27
SSP 3.5 インストールマニュアルおよびご使用の手引き	28
eri(7d) マニュアルページ	28
特記事項: Sun GigaSwift Ethernet デバイスドライバ	28
Netra T4/Netra T20 の問題	29
システムが、削除されたデバイスリンクを間違えて報告する (BugID 4418718)	29
一部の USB Zip ドライブが見つからない (BugID 4453787)	31
LOMlite2 <code>reset-x</code> で CPU がリセットされない (BugID 4462131)	31

LOMlite 2 Lights Out Management ソフトウェアご使用にあたって	31
LOMlite2 ソフトウェアの追加	32
LOMlite2 パッチ 110208 の追加	32
Sun Remote System Control 2.2 に関する注意事項	36
RSC 2.2 で追加された機能	36
Sun Remote System Control ソフトウェアをインストールする前に	36
RSC の一般的な注意事項	38
Sun Fire 280R、Sun Fire V880 および Sun Fire V480 サーバーに固有な RSC の注意事項	40
Sun Fire 280R サーバーに固有の RSC の注意事項	42
Sun Fire V880 サーバーに固有の RSC の注意事項	43
Sun Enterprise 250 サーバーに固有の RSC の注意事項	43
Solstice DiskSuite と Alternate Pathing (BugID 4367639)	45
SunFDDI と ディスクレス起動 (BugID 4390228)	45
複数の Sun GigaSwift Ethernet カードによりシステムがハングする (BugID 4336400, 4365263, 4431409)	45
cpr モジュールを実行した際にシステムがハングする (BugID 4466393)	46
librt オブジェクトがマルチユーザーモードにならない (BugID 4479719)	46
ToolTalk データベースサーバーの脆弱性によりルートアクセスされる (BugID 4499995)	46
システム起動時の無効な警告 (BugID 4519441)	47
Sun ハードウェア AnswerBook に関する注意事項	47
マニュアル内の相互参照	47
4. Sun Enterprise サーバー用 Alternate Pathing 2.3.1 の制限事項	49
Sun Enterprise サーバー用 Alternate Pathing 2.3.1	49
AP の今後のサポートについて	49
インストール作業	50
一般的な問題	52
既知の障害	57

- 解決された障害 57
- その他の障害 58

- 5. Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの制限事項 59
 - Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム 59
 - システム構成情報の表示 59
 - Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム上の動的再構成 60
 - システム固有の DR サポート 60
 - 動的再構成ソフトウェアのインストール手順 61
 - システムファームウェアのアップグレード 61
 - DR の既知の制限事項 64
 - 一般的な DR の制限事項 64
 - CompactPCI に固有の制限事項 65
 - cPCI ネットワークインタフェース (IPMP) をオンラインまたはオフラインにする手順 65
 - オペレーティングシステムの休止 66
 - 動的再構成ソフトウェアのバグ 68
 - 既知の動的再構成のバグ 68

- 6. Sun Enterprise ミッドレンジシステムの制限事項 71
 - Sun Enterprise 6x00、5x00、4x00、3x00 システム用動的再構成 (Dynamic Reconfiguration) 71
 - サポートするハードウェア 72
 - ファームウェアに関する注意事項 72
 - ソフトウェアに関する注意事項 74
 - 既知の障害 76

- 7. Sun Enterprise 10000 サーバーの制限事項 81
 - SSP 3.5 の実行時に予想される問題 81
 - hpost の複数動作時に machine_server メモリーがリークする (BugID 4493987) 82

showdevices がシステムボードのメモリーの基底アドレスを表示しない
(BugID 4495747) 82

動的再構成 (DR) 82

一般的な問題 82

InterDomain Networks (IDN) 84

一般的な問題 84

Solaris オペレーティング環境 84

一般的な問題 84

8. Sun Management Center ライセンス契約条項 87

最新ライセンス契約条項 87

Sun Management Center 3.0 および Sun Management Center 3.0 追加パッケージに関する Sun Microsystems Inc. バイナリソフトウェアライセンス契約書 87

9. Solaris 8 HW 12/02 リリースに収録されているリリース済のパッチ 91

Solaris 8 HW 12/02 パッチ 91

第1章

補足情報

このマニュアルは、以下の内容で構成されています。

- 第1章「補足情報」
- 第2章「サポート中止のご案内」
- 第3章「制限事項」
- 第4章「Sun Enterprise サーバー用 Alternate Pathing 2.3.1 の制限事項」
- 第5章「Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの制限事項」
- 第6章「Sun Enterprise ミッドレンジシステムの制限事項」
- 第7章「Sun Enterprise™ 10000 サーバーの制限事項」
- 第8章「Sun Management Center ライセンス契約条項」
- 第9章「Solaris 8 HW 12/02 リリースに収録されているリリース済のパッチ」

このマニュアルでは、『Solaris 8 HW 12/02 Sun ハードウェアマニュアル』と『Solaris 8 2/02 ご使用にあたって (SPARC 版)』の内容を補足する情報と最新情報について説明します。

注 – このリリースで提供されるマニュアルと CD の一部は、Solaris 8 2/02 リリースに基づくタイトルが付いています。これらマニュアルと CD は、Solaris 8 HW 12/02 オペレーティング環境用として提供されています。これらマニュアルと CD の内容は、前回のリリースから変更されていません。

最新情報について

この節と第9章では、このマニュアルが印刷されてから、Solaris™ 8 HW 12/02 オペレーティング環境のリリースまでの間に確認された最新情報について説明します。

このリリースには OEM の内容を未収録

Solaris 8 HW 12/02 メディアは、Sun Fire B100s、Sun Fire V210、Sun Fire V240、および Netra 240 システムへのインストール専用のメディアです。これらシステムのサポート以外には、新しい機能はありません。Solaris 8 オペレーティングシステムを上記以外のシステムにインストールしている場合、Solaris 8 2/02 のアップデートの使用をお勧めします。また、次の SunSolve Web サイトにある標準パッチも追加して使用できます。

<http://sunsolve.sun.com/>

Solaris 8 2/02 のアップデートではなく、このプラットフォーム固有のリリースに含まれるパッチは、これらリリースノートの第 9 章に番号順に記載されています。

SunVTS env6test の使用できないサブテスト (Bug ID 4797430)

env6test の Fan サブテストは、現在 SunVTS 5.1 Patch Set 1 では使用不可であるため、サポートされていません。

回避策: 現在、回避策はありません。

SunVTS i2c2test で発生する可能性のあるエラー (Bug ID 4797539)

i2c2test の chkfru オプションが正常に実行されない可能性があります。このオプションが有効になっているときに、エラーメッセージが表示されることがあります。

回避策: 現在、回避策はありません。

CPU ファンに障害が発生したときに 0 RPM が表示される (Bug ID 4791240)

Sun Fire V210 と Sun Fire V240 システムで prtdiag コマンドを実行したときに、CPU ファンの障害の発生を示す一意の警告が表示されません。

回避策: prtdiag コマンドを実行した場合には、0 rpm で実行中と表示されているファンを検索します。「0 RPM」と表示されるのは、prtdiag コマンドがファンを検出できない場合、あるいはその速度を読み取れない場合です。

メモリーエラー報告時に間違ったメモリーバンクが指定される (Bug ID 4831983)

Sun Fire V210、Sun Fire V240、または Netra 240 でメモリーエラーが検出されると、エラーメッセージがログに記録されます。ある特定の構成では、間違ったメモリーバンクを報告するメッセージが表示される場合があります。

回避策: このエラーを修正するパッチ 113681-02 をインストールしてください。

誤った割り込みメッセージが表示される可能性がある (Bug ID 4761972)

Sun Fire V210、Sun Fire V240、または Netra 240 で大量の入出力を行うと、誤った割り込みメッセージがコンソールに表示されると同時に、システムログに記録されることがあります。このメッセージの形式は次の通りです。

```
WARNING: invalid vector intr: number 0x7de, pil 0x0
```

このメッセージが表示されても問題はないので、無視してかまいません。

回避策: Solaris カーネルアップデートパッチ 108528-20 またはそれ以降をインストールしてください。

別製品のサポート

Solaris 8 HW 12/02 オペレーティング環境は、以前のバージョンの Solaris との互換性を保っていますが、完全に ABI 準拠でないアプリケーションは実行できない場合があります。詳細については、各ソフトウェアの供給元にお問い合わせください。

サンまたはその他の会社の別製品をインストールしていて、旧バージョンの Solaris ソフトウェアをアップグレードする場合は、アップグレードする前に、それらの製品が Solaris 8 HW 12/02 オペレーティング環境で使用可能かどうかを確認してください。製品ごとに、以下のいずれかの対処をしてください。

- 既存の製品が Solaris 8 HW 12/02 でサポートされることを確認し、そのまま使用する。
- Solaris 8 HW 12/02 でサポートされる新しいバージョンを入手してインストールする。この場合は、Solaris 8 HW 12/02 にアップグレードする前に、前のバージョンを削除する必要がある場合があります。詳細は、製品の説明書を参照してください。

- Solaris 8 HW 12/02 をアップグレードする前に製品を削除する。

詳細は、購入先にお問い合わせください。次のサイトでも情報を提供しています。

<http://sunsolve.sun.co.jp/>

サプリメント CD に収録されているマニュアル

注 - このマニュアルでは、「SOLARIS™ 8 HW 12/02 SOFTWARE SUPPLEMENT」と書かれた CD を、「サプリメント CD」と表記します。

サプリメント CD には、AnswerBook™ およびマニュアルページのコレクションに含まれていない表 1-1 に示すマニュアル類が収録されています。

表 1-1 サプリメント CD に収録されているマニュアル類

パス	説明
Docs/README/README_ja.html	サプリメント CD についての概要や最新情報を説明した README ファイル
Docs/HWPG/HWPG_ja.pdf	Solaris 8 HW 12/02 Sun ハードウェアマニュアル
Docs/SSP_RN/SSP_RN_ja.pdf	Sun Enterprise 10000 SSP 3.5 インストールマニュアルおよびご使用の手引き
Docs/COD_RN/COD_RN_ja.pdf	Sun Enterprise 10000 Capacity on Demand 1.0 インストールマニュアルおよびご使用の手引き
Docs/SMS_RN/SMS_RN_ja.pdf	System Management Services (SMS) 1.2 インストールマニュアルおよびご使用の手引き
Docs/FBH/FBH_ja.pdf	Sun フレームバッファ使用の手引き (XVR-500 フレームバッファについての情報が含まれています)
Docs/REFMAN_SUPP/REFMAN_SUPP_ja.pdf	Sun ハードウェア Solaris リファレンスマニュアル
Docs/DMFE/DMFE_ja.pdf	特記事項: dmfe Fast Ethernet デバイスドライバ
Docs/SUN_FIRE_DR_UG/SUN_FIRE_DR_UG_ja.pdf	Sun Fire 6800, 4810, 4800, 3800 システム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル
Docs/VTS_QUICKREF/VTS_QUICKREF_ja.pdf	SunVTS リファレンスカード

表 1-1 サプリメント CD に収録されているマニュアル類 (続き)

パス	説明
Docs/VTS_UG/VTS_UG_ja.pdf	SunVTS 5.1 ユーザーマニュアル
Docs/VTS_TEST_REF/VTS_TEST_REF_ja.pdf	SunVTS 5.1 テストリファレンスマニュアル
Docs/VTS_PS1_TEST_REF_SUPP/VTS_PS1_TEST_REF_SUPP_ja.pdf	SunVTS 5.1 Patch Set 1 テストリファレンスマニュアル (補足)
ShowMeTV_1.3/Docs/UserGuide/UG_ja.ps	ShowMe TV™ 1.3 ユーザーマニュアル
SunFDDI_SBus_7.0/Docs/SunFDDI6e10k.ps	SunFDDI 6.0 on the Sun Enterprise 10000 Server (英文)
SunForum_3.1/Docs/sunforumUG.ps	SunForum™ Software User's Guide (英文)
RSC_2.2/Product/SUNWrscd	Remote System Control 2.2 User Guide (英文) 注: このマニュアルは、RSC ソフトウェアをインストールするとパッケージから自動的にインストールされます。
System_Management_Services_1.2/Docs/816-3022-10.pdf	Sun Fire 15K ソフトウェアの概要
System_Management_Services_1.2/Docs/816-3008-10.pdf	System Management Services (SMS) 1.2 管理者マニュアル
System_Management_Services_1.2/Docs/816-3009-10.pdf	System Management Services (SMS) 1.2 リファレンスマニュアル

注 - SunForum™ の日本語マニュアルは、日本語化パッケージ SUNWjadat (EUC)、SUNWjpdad (PCK) に含まれています。

RSC の日本語マニュアルは、パッケージ SUNWjrscd に含まれています。

注 - ファイル名に `_en` が付くものは英語のドキュメント、また `_ja` が付くものは日本語のドキュメントです。

サプリメント CD には、AnswerBook とマニュアルページのパッケージも収録されています。AnswerBook パッケージに含まれているマニュアルは、サプリメント CD に収録されている AnswerBook2™ サーバーソフトウェアを使用して表示することができます。マニュアルページパッケージに含まれているマニュアルは、`man` コマンドを使用して表示することができます。サプリメント CD からパッケージをインストールする方法については、『Solaris 8 HW 12/02 Sun ハードウェアマニュアル』を参照してください。

マニュアルページ追補パッケージ

このリリースでは、Solaris Software サプリメント CD で提供されているマニュアルページファイルを利用して、Solaris Software CD に収録されているソフトウェアを使用する方法を説明します。このマニュアルページの英語版は、`Man_Page_Supplement/Product` ディレクトリの `SUNWs8hwman` というパッケージ名に含まれています。このディレクトリのその他のパッケージには、日本語版のマニュアルページが含まれています。

このリリースでは、マニュアルページの追補の中に、`scadm` (1M) と `bge` (7d) に関するファイルが含まれています。

これらのマニュアルページは、デフォルトでは Solaris Software CD の `SUNWman` パッケージからインストールされるマニュアルページと同じ `/usr/share/man` ディレクトリにインストールされます。

注 - システムの `/usr/share` ディレクトリが自動マウントされている場合には、これらのマニュアルページパッケージのインストールが失敗することがあります。その場合には、このマニュアルページに関してインストール中に表示されたエラーメッセージを無視してください。マニュアルページを後でインストールする場合には、コマンド `pkgadd -d . SUNWs8hwman` を使用してください。

64 ビット動作に対応するためのフラッシュ PROM の更新

一部の `sun4u` システムでは、64 ビットモードで Solaris 8 HW 12/02 オペレーティング環境を実行できるようにするために、フラッシュ PROM の `OpenBoot™` ファームウェアを更新する必要があります。32 ビットモードしかサポートしていない、`sun4d`、`sun4m` アーキテクチャーなどのシステムについては、Solaris 8 HW 12/02 ソフトウェアを実行するためにファームウェアを更新する必要はありません。

フラッシュ PROM の更新が必要になるのは、以下のシステムだけです。

- Ultra™ 1
- Ultra 2
- Ultra 450、Sun Enterprise 450
- Sun Enterprise 3000/4000/5000/6000、3500/4500/5500/6500 システム

フラッシュ PROM の更新が必要かどうかを確認する方法や、フラッシュ PROM の更新方法については、『Solaris 8 HW 12/02 Sun ハードウェアマニュアル』を参照してください。

Ultra 1 および Ultra 2 システムの場合は、この更新作業を行うにあたり、静電気防止用リストストラップが必要になることがあります。リストストラップが必要な場合は、購入先にお問い合わせください。

Flash PROM Update Multimedia AnswerBook CD は付属しません

Solaris 8 HW 12/02 では、Flash PROM Update Multimedia AnswerBook CD は付属しません。フラッシュ PROM のアップデート手順については『Solaris 8 HW 12/02 Sun ハードウェアマニュアル』に記載されています。

リムーバブルメディアマネージャの問題

CDE メニューやフロントパネルにあった「フロッピーディスクを表示」や「CD-ROM を表示」オプションに代わって、リムーバブルメディアマネージャ (着脱可能メディアを管理するプログラム) が採用されています。これに関連する障害やその回避策、その他の情報については、<http://docs.sun.com/> の『ご使用にあたって (SPARC 版)』の「実行時の注意事項とバグ情報」にある「共通デスクトップ環境 (CDE)」のセクションを参照してください。

DVD-ROM メディアからの起動を可能にするパッチ

サプリメント CD には、サンのハードウェアに実装されている DVD-ROM ドライブ (対応機種のみ) を使用して DVD-ROM メディアから起動できるようにするパッチが収録されています。DVD-ROM で提供されるソフトウェア製品を起動するには、ご使用のハードウェアにこのパッチをインストールする必要があります。

このパッチは、東芝製 1401 DVD-ROM ドライブのファームウェアを更新します。このパッチ (111649) は、サプリメント CD の以下のディレクトリにあります。

DVD_Firmware/Patches

パッチをインストールする方法については、このディレクトリ内にある README ファイルを参照してください。パッチをインストールする前に、この README ファイルに記述されている注意と警告を読み、必ずその条件に従ってください。

このパッチ (111649) は、Bug ID 4467424 の対応策となっています。

StarSuite 6.0 を有効にするパッチ

StarSuite 6.0 を Solaris 8 HW 12/02 と共にインストールして実行するときは、システムに次のパッチがインストールされていることを確認してください。

- 108434-09 以降
- 108435-09 以降

ヘッドレスシステムの DVD-ROM/CD-ROM ドライブ (BugID 4365497)

リムーバブルメディアなどの着脱式デバイスの電源管理は、使用しているモニターおよびモニターを制御しているグラフィックスカードの電源管理と連動しています。画面が有効になっているときは、CD-ROM ドライブやフロッピーディスクなどのデバイスは全電力モードとなります。このため、モニターなしでシステムを使用した場合、これらのデバイスが低電力モードとなってしまいます。CD やフロッピーディスクを省電力モードから回復させるには、volcheck と入力して OS が各着脱式デバイスから最新の状態を取得するようにします。

代替手段として、Dtpower GUI を使用して、使用しているシステムの電源管理を使用不可にすることができます。この設定を行うと、ヘッドレスシステムでもデバイスは低電力モードにはなりませんが、デバイスは、常時、全電力モードで動作することになります。これは障害ではなく、正常な動作です。

Maintenance Update CD

Solaris オペレーティング環境の今後のリリースでは、Maintenance Update (MU) CD は提供されません。たとえば、オペレーティング環境を Solaris 8 6/00 から Solaris 8 1/01 に変更する場合は「アップグレード」メカニズムを使用することを推奨します (『Solaris 8 のインストール (上級編)』の第 3 章を参照)。Maintenance Update CD は、Solaris のアップデートに必要なものすべてを含むものではないため、通常のアップグレードよりも時間がかかります。

この CD の内容が必要な場合は、<http://sunsolve.sun.com> の Web サイトで CD-ROM イメージをダウンロードできます。

DVD からサプリメント CD の製品をインストールする方法

DVD を使用して Solaris をインストールする場合、サプリメント CD の製品すべてをインストールするには、「インストール形式の選択」ウィンドウの「カスタムインストール」オプションを選択します。

第2章

サポート中止のご案内

Solaris 8 オペレーティング環境でサポートされない製品

以下に Solaris 8 でサポートが中止された製品を示します。詳細については、購入先にお問い合わせください。

sun4c アーキテクチャーのシステム

下記の sun4c アーキテクチャーのシステム、およびこれらのシステムをベースにしたサーバーは、今回のリリースからサポートされません。

- SPARCstation™ SLC
- SPARCstation ELC
- SPARCstation IPC
- SPARCstation IPX
- SPARCstation 1
- SPARCstation 1+
- SPARCstation 2

注 – これと同時に、sun4c アーキテクチャーに依存する全てのハードウェアオプション (SCSI デバイスなど) およびシステム構成も、サポートが中止されます。詳細は、サブリメント CD の /Docs/HWPG ディレクトリにある EOS.html ファイルを参照してください。

SPARCstation Voyager

SPARCstation Voyager™ システムは、今回のリリースではサポートされません。

SPARC Xterminal 1

SPARC Xterminal 1™ システムは、今回のリリースではサポートされません。

今後サポートが中止される製品

下記製品は、今後のリリースでサポートが中止される予定です。詳細は、購入先にお問い合わせください。

sun4d サーバー

次の sun4d アーキテクチャーのサーバーは、今後のリリースでサポートが中止される予定です。

- SPARCserver™ 1000 システム
- SPARCcenter 2000 システム

sun4d アーキテクチャー対応の周辺機器なども、今後のリリースでサポートが中止される予定です。

Ethernet Quad ドライバの `qe` と `qec`

Ethernet Quad ドライバの `qe` と `qec` は、今後のリリースでサポートが中止される予定です。

PC File Viewer

PC File Viewer は、今後のリリースでサポートが中止される予定です。

ShowMe TV

ShowMe TV™ は、今後のリリースでサポートが中止される予定です。

Alternate Pathing マルチパス入出力

Alternate Pathing (AP) マルチパス入出力テクノロジーは、今後のリリースでサポートが中止される予定です。詳細については、第 4 章を参照してください。

SunHSI/S、SunFDDI/S、SunFDDI/P、1e ドライバ

SunHSI™/S、1e、SunFDDI™/S、および SunFDDI/P ドライバは、今後のリリースでサポートが中止される予定です。

トークンリングネットワークドライバ

SBus トークンリングおよび PCI バストークンリングのネットワークドライバは、今後のリリースでサポートが中止される予定です。

SPC ドライバ

SPC S-Bus インタフェースカード用ドライバは、今後のリリースでサポートが中止される予定です。SPC カードは、シリアルパラレルコントローラ (S-Bus、8 ポートシリアル、1 ポートパラレル) のことをいいます。

Sun4m プラットフォームグループ

sun4m プラットフォームグループは、今後のリリースでサポートが中止される予定です。これは、次のプラットフォームに影響します。

- SPARCclassic
- SPARCstation™ X / LX+
- SPARCstation 4
- SPARCstation 5
- SPARCstation 10
- SPARCstation 20

制限事項

2 GB を超えるルートパーティションからの起動 (BugID 1234177)

PROM の制限により、sun4d、sun4m アーキテクチャーのシステムは、2 GB を超えるルートパーティションから起動できません。また、ディスクの先頭に swap が設定されている場合、ルートパーティションと swap の合計が 2GB を越えると起動できません。

この場合は、以下のようなメッセージが表示され、起動に失敗します。

```
bootblk: can't find the boot program
```

注 – sun4u アーキテクチャーのシステムの場合は、このような問題は発生しません。

この問題に関連し、re-preinstall に関する制限事項 (4023466) では、大容量ディスク用の起動イメージにより、2 GB を超えるルートパーティションが作成されるという問題があります。システム管理者は、大容量のルートディスク (4 GB 以上) を持つ sun4d または sun4m アーキテクチャーのシステム上では、re-preinstall を使用しないように注意してください。

デフォルトで複数のネットワークドライバがインストールされる

Solaris 8 HW 12/02 インストーラ CD は、自動的にサブリメント CD から複数のネットワークドライバをインストールします。このとき、Solaris 8 HW 12/02 オペレーティング環境のインストールと同時に、デフォルトで SunATM™、SunHSI/S、SunHSI/P、SunFDDI/S、SunFDDI/P 用のドライバがインストールされます。上記のいずれかに対応したネットワークデバイスがシステムにない場合、エラーメッセージが表示されます。このメッセージは無視してかまいません。

シリアル・パラレルコントローラドライバ DR がサポートされない (BugID 4177805)

Solaris 8 オペレーティング環境で、spc ドライバは動的再構成 (DR) をサポートしません。

32 ビットモードでの Sun Enterprise 10000 システムの起動 (Bug ID 4348354)

64 GB のメモリーを搭載した Sun Enterprise 10000 システムは、Solaris 8 2/02 オペレーティング環境を 32 ビットモードで起動できません。

一部のDVD および CD-ROM ドライブで Solaris を起動できない (BugID 4397457)

SunSwift PCI Ethernet/SCSI ホストアダプタ (X1032A) カードの SCSI 部分のデフォルトのタイムアウト値が、サンの SCSI DVDROM ドライブ (X6168A) のタイムアウト要件に適合しません。一部のメディアでは、DVD-ROM にタイムアウトエラーが発生することがあります。例外は、OBP によって SCSI タイムアウト値を上書きする Sun Fire 6800、4810、4800、および 3800 システムだけです。

他のプラットフォームでの回避策: X1018A (SBus: F501-2739-xx) や X6540A (PCI: F375-0005-xx) などのシステムボード上のインタフェースまたは DVD-ROM 互換 SCSI アダプタを使用してください。

高い負荷がかかると、FDDI がハングアップすることがある (BugID 4485758、4174861、4486543)

PCI FDDI カードには、MAIN_CONTROL および MAIN_STATUS レジスタの DTXSUSP (DMA TX プロセス中断割り込み) ビットおよび DRXSUSP (DMA RX プロセス中断割り込み) ビットに関連する既知のハードウェアの問題があります。通常の条件のもとでは、これらのハードウェアのバグが FDDI 機能に与える影響はわずかなものです。しかし、TX または RX の負荷が非常に高い場合、このカードは予期しない割り込みを送信します。システムは、エラーメッセージ "Interrupt level 6 is not serviced" を送信します。このようなエラーが 20 個送信されると、pcipsy ドライバは FDDI の割り込み処理をシャットダウンして、FDDI はハングアップします。

ipc、vm、ism ストレスを実行しているときに DR コマンドが rcm_daemon の待機中にハングアップする (BugID 4508927)

Solaris オペレーティング環境の休止で特定のユーザースレッドを停止できない場合、他のユーザースレッドを再起動できず、停止状態にとどまることがあります。影響を受けるスレッドによっては、ドメインで実行中のアプリケーションが停止して、ドメインが再起動されるまで他の DR 操作を実行できない場合があります。

回避策: この問題を回避するには、DR を使用して固定メモリーを搭載したボードを削除しないでください。

画面ロック中に Stop-A を押すとモニターがブランクになる (BugID 4519346)

次のすべての条件が発生すると、モニターがブランクになる場合があります。

- フレームバッファカードが Creator3D または Elite3D である
- 「画面のブランク」スクリーンセーバが使用されている
- 画面がブランクの状態ですと Stop-A が押された

回避策: スクリーンセーバが使用可能になっている場合は、「画面のブランク」以外のパターンを選択してください。

IFB ドライバが読み込み解除された後、U コードが再読み込みされない (BugID 4532844)

コマンド行でログインした場合、Expert3D または Expert3D-Lite カードを搭載したシステムが、ウィンドウシステムまたは dtlogin を開始できません。

回避策:

1. 障害のあるシステムにスーパーユーザーとして遠隔ログインします。
2. すべての `ifbdaemon` プロセスを停止します。

```
# sh /etc/init.d/ifbinit stop
```

3. すべての `ifbdaemon` プロセスを開始します。

```
# sh /etc/init.d/ifbinit start
```

高い負荷がかかると、QFE によってシステムがパニック状態になる場合がある (BugIDs 4510631、4517740)

複数のネットワークインタフェースによって構成された Sun Fire 6800、4810、4800、または 3800 システムは、トラフィックの負荷が高い場合、まれにパニック状態になることがあります。またこれもまれな症状ですが、Sun Enterprise 10000 システムは、ネットワーク負荷が極度に高い場合にパニック状態になることがあります。

SunScreen SKIP 1.1.1 に関する制限事項

システムに SunScreen™ SKIP 1.1.1 ソフトウェアをインストールしている場合は、Solaris 8 HW 12/02 をインストールする前、または Solaris 8 HW 12/02 にアップグレードする前に SKIP 関連のパッケージを削除してください。削除する必要がある SKIP 関連のパッケージは以下のとおりです: `SICGbdcdr`, `SICGc3des`, `SICGcdes`, `SICGcrc2`, `SICGcrc4`, `SICGcsafe`, `SICGes`, `SICGkdsup`, `SICGkeymg`, `SICGkisup`。

ISDN — 32 ビットモードでのみサポートされる

ISDN では、Power Management™ (電源管理機能) の保存停止・復元再開機能はサポートされません。

SunVTS 5.1 Patch Set 1 (PS1) の問題

SunVTS™ 5.1 PS1 には、以下のような問題が確認されています。

このリリースの新機能

SunVTS 5.1 PS1 ソフトウェアは、Solaris 8 2/02、Solaris 8 HW 12/02、Solaris 9、Solaris 9 9/02、および Solaris 9 12/02 オペレーティング環境に対応しています。SunVTS 5.1 PS1 リリースには、以下のテストが追加されました。

- **Blade Support Chip** テスト (bsctest)—Sun Fire™ B100s ブレードシステムで使用されている **Blade Support Chip** とこのチップをサポートしているハードウェアのテストを行う新しいテストです。
- **環境テスト(env6test)**—環境サブシステムを実行して、その妥当性検査を行う新しいテストです。このテストには、システムのファン、キースイッチ、LED、電源装置、および温度センサーを検査するサブテストも含まれています。
- **I2C 集積回路間テスト (i2c2test)**—各種 I2C デバイスについて、配置の適正さ、動作状態、およびデータの完全性を検証する新しいテストです。

注 – SunVTS Patch Set でリリースされるすべての新しいテストとテストの拡張機能は、新規のマニュアル『SunVTS x.x Patch Set x Test Reference Manual Supplement』に記載されています。このマニュアルは、サプリメント CD に収録されていますが、ウェブサイト <http://docs.sun.com> から参照できます。

このリリースで追加された新しいテストの詳細は、『SunVTS 5.1 Patch Set 1 テストリファレンスマニュアル (補足)』を参照してください。

注 – SunVTS 5.1 PS1 では、Remote System Control テスト (rsctest) のテスト名が、System Service Processor テスト (ssptest) に変更されています。テスト名が変更されたのは、ssptest では Remote System Control 1.0 および 2.0 ハードウェアに加えて、Advanced Lights-Out Management (ALOM) ハードウェアもテストするためです。

オンラインヘルプマニュアル

SunVTS 5.1 ソフトウェアに収録されているオンラインヘルプマニュアルには、RAM テスト (ramtest) に関する章が含まれています。ただし、このテストは SunVTS 5.1 ではサポートされません。

『SunVTS 5.1 テストリファレンスマニュアル』 の訂正

この節では、『SunVTS 5.1 テストリファレンスマニュアル』の以下のテストに関する章に記載されている、「サポート対象テストモード」表の間違いを訂正します。

- コンパクトディスクテスト (cdtest)
SunVTS 5.1 ではオンラインテストモードがサポートされます。
- CPU テスト (cpptest)
SunVTS 5.1 ではオンラインテストモードがサポートされます。
- ディスクドライブテスト (disktest)
SunVTS 5.1 ではオンラインテストモードがサポートされます。
- DVD テスト (dvdtest)
SunVTS 5.1 ではオンラインテストモードがサポートされます。
- ECP 1284 パラレルポートプリンタテスト (ecptest)
SunVTS 5.1 ではオンラインテストモードがサポートされません。
- Sun StorEdge A5x00 テスト (enatest)
SunVTS 5.1 では機能テストおよびオンラインテストモードがサポートされます。
- Sun StorEdge 1000 格納装置テスト (enctest)
SunVTS 5.1 ではオンラインテストモードがサポートされます。
- 環境テスト (env2test)
SunVTS 5.1 ではオンラインおよび排他的テストモードはサポートされません。

- 環境テスト (env4test)
SunVTS 5.1 では接続テストモードがサポートされます。
- 浮動小数点ユニットテスト (fptest)
SunVTS 5.1 ではオンラインテストおよび排他テストモードがサポートされます。
- キャッシュ整合性テスト (mpconstest)
SunVTS 5.1 では排他テストモードのみサポートされます。
- マルチプロセッサテスト (mptest)
SunVTS 5.1 では排他テストモードのみサポートされます。
- Remote System Control テスト (rsctest)
SunVTS 5.1 ではオンラインテストモードがサポートされません。
- シリアルポートテスト (sptest)
SunVTS 5.1 ではオンラインテストモードがサポートされません。
- SunHSI ボードテスト (sunlink)
SunVTS 5.1 ではオンラインテストモードがサポートされません。
- システムテスト (systest)
SunVTS 5.1 では接続テストモードはサポートされません。
- テープドライブテスト (tapetest)
SunVTS 5.1 ではオンラインテストモードがサポートされません。
- S24 フレームバッファータテスト (tcxtest)
SunVTS 5.1 では接続テストモードがサポートされます。

インストール時に予想される問題

pkgadd コマンドではなくインストールプログラムを使って SunVTS をインストールする場合に、以下に示す問題が発生する可能性があります。

インストール時の問題:

32 ビットのみでのシステムでの Web Start 2.0 の使用 (BugID 4257539)

Web Start 2.0 では、Solaris 64 ビット環境をインストールしていないシステムに SunVTS をインストールできないことがあります。SunVTS 64 ビットパッケージでインストールが中断された場合に、Web Start 2.0 では SunVTS 32 ビットパッケージが削除されます。

回避策: 『SunVTS 5.1 ユーザーマニュアル』の説明に従い、pkgadd コマンドを使用して 32 ビットの SunVTS パッケージをインストールします。

インストール時の問題: Web Start 2.0 使用時のセキュリティーの設定 (BugID 4362563)

Web Start 2.0 を使用して SunVTS をインストールする場合、Sun Enterprise Authentication Mechanism™ (SEAM) Kerberos v5, SunVTS セキュリティー機能を有効にするかどうかの問い合わせが行われません。デフォルトのインストールでは、この高いレベルのセキュリティーなしで SunVTS がインストールされます。高いレベルのセキュリティーを必要としない場合は問題ありません。

回避策: 高いレベルの SEAM セキュリティーを有効にする場合は、『SunVTS 5.1 ユーザーマニュアル』の説明に従い、pkgadd コマンドを使用して SunVTS パッケージをインストールします。

インストール時の問題: Web Start 2.0 を使用するときインストールディレクトリが 固定される (BugID 4243921)

Web Start 2.0 を使用して SunVTS をインストールする場合は、SunVTS がインストールされるディレクトリを変更できません。SunVTS は、/opt にインストールされます。

回避策: 『SunVTS 5.1 ユーザーマニュアル』の説明に従い、pkgadd -a none コマンドを使用して任意のディレクトリに SunVTS をインストールします。

インストール時の注意事項: インストール時およびアンインストール時には同じプログラム を使用する

SunVTS ソフトウェアを削除するときには、インストールしたときと同じツールまたはユーティリティーを使用してください。インストールに pkgadd を使用した場合は、アンインストールには pkgrm を使用し、インストールに Web Start を使用した場合は、アンインストールには Product Registry を使用します。

実行時に予想される問題

sc2testの使用：SmartCard アプリケーションの使用の制限 (Bug ID 4677510)

ocfserv (またはサードパーティ製 SmartCard アプリケーション) が /dev/scmi2c0 デバイスを排他的に使用しているときには、sc2test が失敗することがあります。

回避策: ocfserv またはサードパーティ製 SmartCard アプリケーションを終了してから、sc2test を開始します。

iutest の使用：Test Depth パラメタの制限 (Bug ID 4713531)

Test Depth に大きい値を設定すると、iutest でコアダンプが発生する場合があります。

fwcamtest の使用：グラフィックテストと同時に実行する場合の制限 (Bug ID 4712386)

エラーを記録しないでグラフィックテストと同時に fwcamtest を実行すると、失敗する場合があります。

pkginfo -c sunvts コマンドの使用

SunVTS 5.1 では、pkginfo -c sunvts コマンドを実行しても何も表示されません。これは、pkginfo コマンドの -c オプションが正しく実行されるためです。

回避策: 次のコマンドを使用して、SunVTS 5.1 パッケージ情報を取得します。

```
# pkginfo -l SUNWvts SUNWvtsx SUNWvtsmn
```

次のコマンドを使用して、追加の SunVTS 5.1 パッケージ情報を取得できます。

```
# pkginfo -c system | grep vts
```

ShowMe TV 1.3 に関する注意事項

ShowMe TV 1.3 では、MPEG2 ムービーの再生がサポートされています。Sun MediaCenter™ はサポートされていません。また、ShowMe TV 1.3 ソフトウェアでは、いくつかの 1.2.1 のバグも修正されています。既知の問題を示します。

- MPEG1/2 ムービーの再生について、いくつかの不具合が確認されています。ズーム機能の使用できないフレームバッファがある、再生位置を示すインジケータが正確でない、コマ送りの巻き戻し機能が使用できない、などです。
- Ultra 以外のシステムで CIF ストリームと QCIF H.261 ストリーム (標準解像度の 356x288 のフレームと低解像度の 176x144 のフレーム) を切り替えることはできません。
- 1 つのテキスト行の中にアジア言語と ASCII 文字を混在させると、ShowMe TV ソフトウェアの入力・出力機能で障害が発生することがあります。特に、アジア言語が含まれている送信名やホスト名の送信を設定する場合、それらのパラメタの .showmetv-programs-ホスト名 構成ファイルへの保存や、ファイルからの回復が正しく機能しない場合があります。この問題を防ぐためには、英数文字での記述をお勧めします。
- 英語以外のロケールで、Reciever ソフトウェアのボタンやメニューに不正な文字列が入ることがあります (バグ ID: 4210702)。

PCMCIA に関する注意事項

以下に、PCMCIA デバイスのサポートに関する注意事項を説明します。

既知の障害

PC ATA (pcata) モジュールを modunload すると、システムの処理が滞っているように見える (BugID 4096137)

スロットの PCMCIA 入出力カードがアクセスされたことがあり、そのカード用のドライバを読み込み解除 (マルチユーザー起動の最後に `modunload -i 0` 処理したときに発生) すると、システムの処理が滞っているように見えます。

回避策: カードを取り外すと、システムが回復することがあります。

最初に 64 ビットカーネルで Solaris 8 オペレーティング環境を起動すると、PC カードシリアルドライバ用の /dev/term/pc0 デバイスが作成されない (BugID 4162969)

最初に 64 ビットカーネルで Solaris 8 オペレーティング環境を起動すると、PC カードシリアルデバイス用の /dev/term/pc0 ハードウェアデバイスノードが作成されないことがあります。

回避策: 最初に 32 ビットカーネルでシステムを起動し、その後、64 ビットカーネルでシステムを再起動してください。

PC file viewer に関する注意事項

/opt ディレクトリへのインストールが必須

『Solaris 8 HW 12/02 Sun ハードウェアマニュアル』では、PC file viewer はデフォルトディレクトリ以外の場所にもインストールできると記述されています。しかし、この説明は間違っています。必ず /opt ディレクトリにインストールしてください。

既知の障害

- PowerPoint 97 文書でバックドロップイメージが表示されない (BugID 4159447)
- PowerPoint 97 で標準以外のフォントを表示できない (BugID 4159448)
- PowerPoint 97 文書で Excel のグラフや表が表示されない (BugID 4159449)
- PowerPoint 97 で縮小・拡大したフォント、色付きの文字、斜体下線付きの文字を表示できない (BugID 4159450、4159451、4159452)
- テキストエディタにいくつかのファイルをコピーしてペーストすると、ファイルの内容ではなくアスタリスク (*) が表示される (BugID 4165089)
- PC file viewer でマルチバイト文字 (tch、ko) の検索を行えない (BugID 4151774)
- 日本語ロケールでの PC file viewer の検索で文字列の文字順がおかしくなる (BugID 4171815)
- zh.TW.BIG5 ロケールで、Word 97 または PowerPoint 97 形式で保存した TCH Word 95 ファイルを表示できない (BugID 4150413)
- PC file viewer は、UTF-8 ロケール上では日本語テキストの検索が機能しない (BugID 4231939)

マニュアルの訂正

Solaris 8 HW 12/02 のマニュアルにおいて以下の訂正があります。

注 – このリリースで提供されるマニュアルと CD の一部には、Solaris 8 2/02 リリースに基づくタイトルが付いています。これらマニュアルと CD は、Solaris 8 HW 12/02 オペレーティング環境用として提供されています。これらマニュアルと CD の内容は、前回のリリースから変更されていません。

MPxIO マニュアルへの参照

『Sun Enterprise 10000 SSP 3.5 ユーザーマニュアル』 『Sun Enterprise 10000 Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』 および 『Sun Enterprise 10000 DR 構成マニュアル』 には、発行されていないマニュアル、つまり、『MPxIO Installation and Configuration Guide』 への参照が記載されています。

MPxIO 製品は、現在 Sun StorEdge™ Traffic Manager と呼ばれています。Sun StorEdge Traffic Manager のインストールと構成に関する情報は、『Sun StorEdge™ Traffic Manager Software Installation and Configuration Guide』 に記載されています。このマニュアルは、次に示す Sun Network Storage Solutions の Web サイトから入手できます。

<http://www.sun.co.jp/storage/san>

このマニュアルにアクセスするには、次の手順を実行してください。

1. <http://www.sun.co.jp/storage/san> に移動して、“Sun StorEdge[tm] SAN 3.0 ダウンロード:ソフトウェア/ファームウェア・アップグレードとドキュメント” リンクをクリックします。
2. サインオンするか、または登録します。
3. “Download STMS Install/Config Guide, Solaris/SPARC (.35 MB)” リンクをクリックします。

SSP 3.5 インストールマニュアルおよびご使用の手引き

10 ページ: snmpd デーモンのメモリーリーク (BugID 4486454) に関する説明で、メイン SSP にユーザー `ssp` でログインして SSP デーモンの停止、再起動を行うように記述していますが、必ずスーパーユーザーでログインしてデーモンの停止、再起動を行ってください。

eri(7d) マニュアルページ

eri(7d) マニュアルページにおいて、`eri.conf` ファイルが `/kernel/drv/sparcv9/eri.conf` に格納されていると記述されていますが、この記述は間違っています。

正しい格納場所は `/kernel/drv/eri.conf` です。

特記事項: Sun GigaSwift Ethernet デバイスドライバ

AnswerBook2 形式のマニュアルのタイトルが間違っています。正しくは『特記事項: Sun GigaSwift Ethernet デバイスドライバ』です。

Netra T4/Netra T20 の問題

システムが、削除されたデバイスリンクを間違っ て報告する (BugID 4418718)

luxadm remove_device /dev/rdisk/c1t1d0s2 を呼び出すと、確認が要求されて、ディスクのスピンドウンとオフライン化が報告されます。ディスクを削除した場合、Return キーを押すと、デバイスリンクが削除されたと報告されます。

しかし、デバイスリンクは削除されません。ディスクは luxadm insert_device コマンドを実行しなくても再度挿入して使用することができます。続けてこのコマンドを実行すると、新規デバイスが追加されていないと報告されて、コンソールに次のメッセージが表示されます。

```
bash-2.03# luxadm remove_device /dev/rdisk/c1t1d0s2

WARNING!!!Please ensure that no filesystems are mounted on these device(s).
All data on these devices should have been backed up.

The list of devices which will be removed is:
 1: Device name:/dev/rdisk/c1t1d0s2
    Node WWN:2000002037e367e4
    Device Type:Disk device
    Device Paths:
      /dev/rdisk/c1t1d0s2

Please verify the above list of devices and
then enter 'c' or <CR> to Continue or 'q' to Quit.[Default:c]:
stopping:/dev/rdisk/c1t1d0s2....Done
offlining:/dev/rdisk/c1t1d0s2....Done

Hit <Return> after removing the device(s)

Device:/dev/rdisk/c1t1d0s2
Logical Nodes being removed under /dev/dsk/ and /dev/rdisk:
  c1t1d0s0
  c1t1d0s1
  c1t1d0s2
```

```
c1t1d0s3
c1t1d0s4
c1t1d0s5
c1t1d0s6
c1t1d0s7
```

```
Device:/dev/rdisk/c1t1d0s2
```

```
Logical Nodes being removed under /dev/dsk/ and /dev/rdisk:
```

```
c1t1d0s0
c1t1d0s1
c1t1d0s2
c1t1d0s3
c1t1d0s4
c1t1d0s5
c1t1d0s6
c1t1d0s7
```

```
bash-2.03# ls -l /dev/dsk/c1t1*
```

```
lrwxrwxrwx 1 root root 70 May 4 19:07 /dev/dsk/c1t1d0s0 ->
../../../../devices/pci@8,600000/SUNW,qlc@4/fp@0,0/ssd@w2100002037e367e4,0:a
lrwxrwxrwx 1 root root 70 May 4 19:07 /dev/dsk/c1t1d0s1 ->
../../../../devices/pci@8,600000/SUNW,qlc@4/fp@0,0/ssd@w2100002037e367e4,0:b
```

```
bash-2.03# ls -l /dev/rdsk/c1t1*
```

```
lrwxrwxrwx 1 root root 74 May 4 19:07 /dev/rdsk/c1t1d0s0 ->
../../../../devices/pci@8,600000/SUNW,qlc@4/fp@0,0/ssd@w2100002037e367e4,0:a,raw
lrwxrwxrwx 1 root root 74 May 4 19:07 /dev/rdsk/c1t1d0s7 ->
../../../../devices/pci@8,600000/SUNW,qlc@4/fp@0,0/ssd@w2100002037e367e4,0:h,raw
```

```
·
·
```

```
/* the following errors are caused by SUNWvts reprobe looking for said disk */
```

```
bash-2.03#
```

```
8012 05/22/01 14:05:07 Failed on iotcl DKIOCGMEDIAINFO:6: No such device or
address
```

```
8012 05/22/01 14:05:41 Failed on iotcl DKIOCGMEDIAINFO:6: No such device or
address
```

```
8012 05/22/01 14:07:25 Failed on iotcl DKIOCGMEDIAINFO:6: No such device or
address
```

```
bash-2.03# luxadm insert_device
```

```
Please hit <RETURN> when you have finished adding Fibre Channel
Enclosure(s)/Device(s):
```

```
Waiting for Loop Initialization to complete...
```

```
No new device(s) were added!!
```

この問題を回避するには、`luxadm remove_device` が正常に終了したと報告するときに、次のコマンドを入力してください。

```
# devfsadm -C -c disk
```

一部の USB Zip ドライブが見つからない (BugID 4453787)

4 台の USB Iomega Zip ドライブが接続されている場合、`prtconf` は、システムの起動後にロードされたドライバがないと示します。`drvconf` を実行すると、システム検索が行われて、4 台の Zip ドライブのうち 2 台だけが検出されます。

`/dev/usb/hub0` ファイルに対して `cat` を実行すると、2 台の Zip ドライブが追加されます。

回避策: 現行リリースでは 3 台以上の Zip ドライブを使用しないでください。

LOMlite2 `reset-x` で CPU がリセットされない (BugID 4462131)

現在、LOMlite2 `reset-x` コマンドを実行しても CPU はリセットされません。この機能は、OpenBoot PROM の今後のバージョンに組み込まれる予定です。

LOMlite 2 Lights Out Management ソフトウェアご使用にあたって

現在、Lights Out Management (LOM) ソフトウェアのこのリリースをサポートしているのは、Sun Fire V100、Sun Fire V120、Netra T1、Netra X1、Netra t1、Netra t1400/1405 サーバーです。Lights Out Management ソフトウェアの構成方法と操作方法については、サポート対象のサーバーに付属のユーザーマニュアルの該当する章を参照してください。

LOMlite2 ソフトウェアの追加

1. サプリメント CD を挿入して、LOMlite 2.0 ソフトウェアのディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0/Lights_Out_Management_2.0/Product
```

2. LOMlite 2.0 パッケージを追加して、すべての質問に **y** と答えます。

```
# pkgadd -d .SUNWlomm SUNWlomr SUNWlomu
```

3. LOMlite 2.0 パッケージがインストールされたことを確認します。

```
# pkgchk -v SUNWlomm SUNWlomr SUNWlomu
```

これで、LOMlite2 ソフトウェアがインストールされました。続いて、次の節の説明に従って LOMlite 2 パッチ 110208 を追加します。

LOMlite2 パッチ 110208 の追加

SunSolveの最新バージョン (バージョン -13 以上) のパッチ 110208 があることを確認します。

注 – LOMlite2 ソフトウェアは、このパッチが追加されないと機能しません。

1. 基本 LOMlite2 ファームウェアのバージョンを確認します。

#. と入力して lom> プロンプトを表示して、version を実行します。

```
#.
lom>version

LOM version:v4.4-LW2+
LOM checksum:387e
LOM firmware part#   258-7939-12
Microcontroller:H8S/2148
LOM firmware build   Aug 30 2001 18:02:40
Configuration rev.   v1.2

lom>console
```

LOM ファームウェアのバージョンは 4.5 以上でなければなりません。

2. lom> プロンプトに console と入力して、# プロンプトに戻ります。

3. デバイスノードが存在することを確認します (PROM 4.2.4 によって)。

```
# prtconf -v
OBP 4.2.4 2001/06/13 10:10
# prtconf | grep SUNW,lomv
SUNW,lomv (driver not attached)
```

4. パッチを一時ディレクトリ (/var/tmp) にコピーします。

パッチがコピーされていることを確認します。

```
# cd /var/tmp
# ls
110208-13.zip
```

5. パッチを圧縮解除します。

```
# unzip 110208-13.zip
```

6. パッチを適用します。

```
# patchadd 110208-13
# reboot
```

7. パッチが読み込まれたことを確認します。

```
# modinfo | grep lomv
```

8. ファームウェアをアップグレードするには、次のように入力します。

```
# lom -G default
```

プロンプトの指示に従って、**c** と入力して作業を続けます。

注 - このプロセスには数分かかります。更新の進行中は、システムの電源を切らないでください。

9. Return キーを押して、UNIX のプロンプトを再表示します。

注 - ok プロンプトが表示されたら、**go** と入力して UNIX のプロンプトに戻ります。

10. lom -a コマンドを実行して機能をチェックします。

```
# lom -a
PSUs:
1 OK

Fans:
1 OK speed 90%
2 OK speed 86%
3 OK speed 75%

LOMlite configuration settings:
serial escape character=#
serial event reporting=default
Event reporting level=fatal, warning & information

Serial security=enabled
Disable watchdog on break=enabled
Automatic return to console=disabled
alarm3 mode=user controlled
firmware version=4.5
firmware checksum=1164
product revision=1.4
product ID=Netra T4
.
<truncated>
.
LOMlite led states:
1      on          Power
2      off         Fault
3      off         Supply A
4      off         Supply B
5      on          PSU ok
6      off         PSU fail
#
```

これでソフトウェアがインストールされて、システムを使用できるようになりました。

Sun Remote System Control 2.2 に関する注意事項

この節では、Sun Remote System Control (RSC) 2.2 のハードウェアとソフトウェアに関する注意事項を示します。RSC の使用方法に関する詳細は『Sun Remote System Control(RSC) 2.2 ユーザーマニュアル』を参照してください。

RSC 2.2 で追加された機能

RSC 2.2 では、新しい機能が追加されています。

- RSC GUI を実行するには、Java™ Runtime Environment のアップデートバージョン、つまり Java 2 Standard Edition (J2SE) Runtime Environment の 1.3.0_02 またはそれ以降のバージョンが必要です。ご使用のコンピュータに合わせて、以下のいずれかのウェブサイトからダウンロードすることができます。
 - Solaris — <http://www.sun.com/solaris/java>
 - Windows — <http://java.sun.com/j2se/1.3/>
- Microsoft Windows 2000 オペレーティング環境に対応したクライアント機能がサポートされました。Windows 95 はサポートされていません。
- Sun Fire V480 サーバシリーズには、新しいハードウェア機能 (Locator LED) がシステムの前面および後部パネルに追加されました。これらの LED の使用状態は RSC ソフトウェアから切り替えることができ、他のサーバとともにラックに実装されている個々のシステムを特定することができます。
- 最大 16 人分の RSC ユーザーアカウントが使えるようになりました。最大 10 人までのユーザーが同時にログインすることができます。ただし、ユーザーアカウント数が増えても、サーバ当たりの telnet または GUI 同時ログインセッション数の制限 (最大 5) は今までと変わりません。

Sun Remote System Control ソフトウェアをインストールする前に

RSC ソフトウェアは、この Solaris サプリメント CD からデフォルトでインストールされます。RSC サーバコンポーネントは、互換性のある Solaris サーバに対してのみインストールしてください。また、クライアントソフトウェアは、Solaris あるいは Windows オペレーティング環境の要件を満たしているコンピュータにインストールすることができます。RSC を使用するには、RSC ソフトウェアのインストールと構成を行う必要があります。

重要: RSC サーバーソフトウェアの以前のバージョンからアップグレードする場合、または RSC ソフトウェアを再インストールする場合は、サーバーヘスパーユーザーでログインし、以下のコマンドを使用して構成データのバックアップを行ってください。

```
# rscadm show > 遠隔ファイル名
# rscadm usershow >> 遠隔ファイル名
```

遠隔ファイル名には、RSC が制御しているサーバーの名前を入れたわかりやすいファイル名を使用してください。ソフトウェアのインストール後、このファイル名を使用して構成の設定を復元できます。バージョン 2.2 をインストールした後は、以前のバージョンの RSC サーバーソフトウェアに戻さないようにしてください。以前のバージョンの RSC サーバーソフトウェアに戻した場合は、以前に使用していた構成情報を復元し、サーバーの電源を切って再投入する必要があります。

RSC 2.2 サーバーソフトウェアパッケージ (SUNWrsc) は、以下のサーバーにインストールできます。

- Solaris 8 2/02 または Solaris 8 HW 12/02 オペレーティング環境が動作している Sun Fire V480 サーバー
- Solaris 8 7/01 オペレーティング環境、または RSC 2.2 製品をサポートしているその他のバージョンの Solaris オペレーティング環境が動作している Sun Fire V880 サーバー
- Solaris 8 1/01 オペレーティング環境または RSC 2.2 製品をサポートするその他のバージョンの Solaris が動作している Sun Fire 280R サーバー
- 次のオペレーティング環境が動作している Sun Enterprise 250 サーバー
 - Solaris 2.6
 - Solaris 7
 - Solaris 8

RSC 2.2 クライアントソフトウェアパッケージは、以下のコンピュータにインストールできます。

- Solaris 2.6、Solaris 7、または Solaris 8 オペレーティング環境が動作している任意のコンピュータ。インストールするパッケージは、SUNWrscj (GUI) と SUNWrscd (マニュアル) です。
- 次の Microsoft Windows オペレーティング環境が動作している任意のシステム
 - Windows 98
 - Windows 2000
 - Windows NT 4.0

Microsoft Windows オペレーティング環境に対応した RSC GUI およびマニュアルをインストールする場合の実行ファイルは SunRsc.exe です。

- クライアントコンピュータで RSC 2.2 ソフトウェアを実行するには、Java 2 Standard Edition (J2SE) Runtime Environment のバージョン 1.3.0_02 またはそれ以降の 1.3.x バージョンが必要です。RSC 2.2 ソフトウェアは、Java 2 Standard Edition Runtime Environment バージョン 1.2.x では実行できません。ご使用のコンピュータに合わせて、以下のいずれかのウェブサイトからダウンロードすることができます。
 - Solaris — <http://www.sun.com/solaris/java>
 - Windows — <http://java.sun.com/j2se/1.3/>

RSC ソフトウェアを Solaris オペレーティング環境にインストールすると、Sun Remote System Control (RSC) 2.2 のユーザーマニュアルは `/opt/rsc/doc/locale/pdf/user_guide.pdf` ディレクトリに置かれます。Windows オペレーティング環境にインストールすると、このマニュアルは `C:\Program Files\Sun Microsystems\Remote System Control\doc\locale\user_guide.pdf` に置かれます。

以下の節では、Sun Remote System Control (RSC) 2.2 の注意事項について説明します。

RSC の一般的な注意事項

この節では、RSC を実行しているすべてのプラットフォーム (Sun Enterprise 250、Sun Fire 280R、Sun Fire V880、Sun Fire V480 サーバー) に影響がある注意事項について説明します。

警告メッセージの表示が遅い (BugID 4474273)

RSC 変数の `page_enabled` と `mail_enabled` をともに `true` に設定しているとき、複数の警告メッセージが短時間に発生すると、最初のメッセージは適時に表示されますが、その時間内に発生した後続のメッセージの表示が 3 ~ 4 分程度遅くなります。

RSC がバッテリー電源による場合、RSC GUI のキースイッチ位置が不明である (BugID 4492888)

RSC カードがバッテリー電源によって実行されている場合、RSC GUI のキースイッチスロットはグレーで表示され、キースイッチのテキストにマウスを移動すると「現在のキーの位置は不明」と表示されます。

alerts.html の情報が間違っている (BugID 4522646)

page_info1 または page_info2 フィールドを構成する場合は、ポケベル番号を指定するときに任意の数字または英数字 #、@、および、(コンマ)を使用できますが、PIN 領域に使用できるのは数字 (0 ~ 9) だけです。RSC GUI では、この機能のオンラインヘルプが間違っています。ポケベルに合わせて RSC を構成する方法の詳細については、『Sun Remote System Control (RSC) 2.2 ユーザーマニュアル』を参照してください。

diag-switch? が true に設定されている場合、 rsc-console が起動中に tip 接続に切り替わる (BugID 4523025)

diag-switch? が true に設定されているときに、bootmode -u コマンドを使用してワークステーションを再起動すると、以前にコンソールを RSC にリダイレクトした場合でも、rsc-console は、Solaris の再起動後、シリアル (tip) 接続に戻りません。

この問題が発生した場合は、再起動操作が完了してから、コンソール出力を再度手動で RSC にリダイレクトしてください。詳細については、『Sun Remote System Control (RSC) 2.2 ユーザーマニュアル』を参照してください。

GUI/CLI からの電源投入が許可されているが動作せず、キースイッチがオフになる (BugID 4524277)

システムの状態がバッテリー電源から待機電源に変更されて、キースイッチがオフの位置にある場合、CLI または GUI のどちらかから poweron コマンドを発行したときに、RC ソフトウェアは、システムの電源を投入できないという警告を生成します。RSC ソフトウェアはこの警告を発行します。キースイッチをオンの位置に移動する必要があります。

この問題が発生した場合は、resetrsc コマンドを使用してください。

RSC bootmode -u コマンドがコンソールを切り替えることができない (BugID 4525310)

この断続的に発生する問題は、OpenBoot PROM バージョン 4.4.6 を実行する Sun Fire V880 サーバーで見られます。場合によっては、bootmode -u コマンドでコンソールを RSC にリダイレクトできないことがあります。この問題が発生した場合は、resetrsc コマンドを使用してください。

OBP 4.4.3 で警告メッセージの代わりに ERROR: RSC-Initiated Reset が表示される (BugID 4514863)

OpenBoot PROM ソフトウェアのバージョン 4.4.3 を実行しているサーバーで、RSC 開始のシステムリセットで次のメッセージが表示されます。

```
ERROR:RSC-initiated Reset
```

このメッセージは、警告レベルのメッセージとしてのみ機能し、処置は必要ありません。

日本語版 Microsoft Windows 98 初期バージョン上で RSC クライアントソフトウェアを一度しか実行できない

RSC クライアントソフトウェアを日本語版 Microsoft Windows 98 にインストールした場合、RSC クライアントをいったん終了してから再度実行しようとする時、「javaw のスタック エラーです」というダイアログが表示され、Windows を再起動しない限り RSC クライアントを再び実行することができません。この現象は初期バージョンの Windows 98 上でのみ発生し、Windows 95, Windows 98 Second Edition, Windows NTでは発生しません。

回避策: Microsoft IME98 Service Release 1 (IME98-SR1) を Microsoft の Web サイトからダウンロードしてインストールします。IME98-SR1 をインストールした後は、クラッシュは発生しません。

Sun Fire 280R、Sun Fire V880 および Sun Fire V480 サーバーに固有な RSC の注意事項

この節では、Sun Fire 280R、Sun Fire V880 および Sun Fire V480 サーバー上で動作している RSC にのみ影響する注意事項について説明します。

RSC カードの取り外しと取り付け



注意 – システムの AC 電源コードをつないだままで RSC カードの取り外しまたは取り付けを行うと、システムあるいは RSC カードが故障することがあるのでご注意ください。RSC カードの取り外しと取り付けは購入先の技術者のみが行えます。この操作を行う場合は、購入先の技術者にお問い合わせください。

『Sun Fire 280R Server Service Manual』または『Sun Fire 880 サーバーサービスマニュアル』に記載されている手順に従って RSC カードを取り外しあるいは取り付けを行う前に、次の手順を実行してシステムの **AC 電源が切れている**ことを確かめてください。

1. システムをシャットダウンして停止させます。
2. システムが ok プロンプトを表示している状態で、キースイッチを「オフ」位置に設定します。
この時点では、まだスタンバイ電源が入っています。
3. 背面パネルのコンセントからすべての AC 電源コードを抜きます。
この結果、システムのスタンバイ電源の電圧が 0 となります。
4. 以降は、ご使用のサーバーのサービスマニュアルに記載されている必要な作業を行ってください。

その他の RSC の警告

電源の中断後に RSC カードがバッテリーの使用を開始したとき、RSC は Sun Fire 280R または Sun Fire V880 に対して次の警告を発します。

```
00060012: "RSC operating on battery power."
```

RSC は、ホストシステムが RSC を停止すると、次の警告を生成します。これらのメッセージはログに記録されます。

```
00040000: "RSC Request to power off host."
```

```
00040029: "Host system has shut down."
```

キースイッチを使用して、または OpenBoot PROM poweroff コマンドを使用してシステムをシャットダウンすると、上記の警告 00040029 だけが表示されます。

これらの警告は、『Sun Remote System Control (RSC) 2.2 ユーザーマニュアル』に記載されていません。

バッテリー電源から待機電源に切り替えると、GUI のロケータの LED がオンになる (BugID 4524272、Sun Fire V480 サーバーの場合のみ)

RSC ハードウェアの状態がバッテリー電源から待機電源に変更されると、Sun Fire V480 のロケータの LED が GUI でのみ点灯します。システムの LED は点灯しません。

この状態が発生した場合は、resetrsc コマンドを使用してください。

Sun Fire 280R サーバーに固有の RSC の注意事項

この節では、Sun Fire 280Rサーバー上で動作している RSC にのみ影響する注意事項について説明します。Sun Fire 280R サーバーのその他の注意事項については『Sun Fire 280R サーバー ご使用にあたって』を参照してください。

xir によるソフトリセットが正しく動作しない (BugID 4361396、4411330)

サーバーで xir コマンドを使用しても、期待したとおりにサーバーが ok プロンプトを表示しません。この問題は、サーバーの機種ごとに解決されています。ご使用のハードウェアプラットフォームについての『ご使用の手引き』を参照してください。

起動処理において RSC が省略されることがある (BugID 4387587)

まれに、システムの起動時に RSC カードが省略されることがあります。システムが起動されてオンラインになっているかどうかを確認するには、ping コマンドを使ってカードが有効となっているかどうかを確認するか、あるいは telnet または rlogin を使用してログインしてみます。システムがネットワークに接続されていない場合は、システムに対して tip 接続を確立します。(コンソール I/O が RSC カードに直結されていないことを確認してください。) tip 接続を使用して、障害のあるシステムの起動メッセージを参照するか、システムを再起動します。問題点の診断についての情報は、ハードウェアのマニュアルを参照してください。

電源投入時に不正なドライブ障害が報告される (BugID 4343998、4316483)

システムの電源を投入した際に、不正な内蔵ドライブ障害が Sun Remote System Control (RSC) ログに記録されます。

システムが正常に Solaris オペレーティング環境を起動した場合は、RSC からこのエラーが報告されても無視してください。通常、この間違った障害は再発生しません。起動処理後にディスクを検査するには、fsck ユーティリティを使用します。

注 – Solaris オペレーティング環境がディスクドライブのエラーメッセージを報告した場合は、実際にディスクドライブにエラーが発生しています。

ディスクドライブ障害が ok プロンプトで報告され、システムが Solaris オペレーティング環境の起動に失敗する場合は、ディスクドライブに問題が発生している可能性があります。『Sun Fire 280R Server Service Manual』の「Diagnostics, Monitoring, and Troubleshooting」の章の記述に従って OpenBoot Diagnostics テストを使ってディスクドライブをテストしてください。

コマンド `rscadm resetrsc` が失敗する (BugID 4374090)

コールド再起動後あるいはシステムの電源投入後に、RSC コマンド `rscadm resetrsc` が失敗します。これは既知の現象です。コマンドを正しく機能させるには、ホストシステムをリセットする必要があります。

ホストをリセットするには、次の 3 つの方法があります。次のいずれかの方法を使用してください。

- ok プロンプトで、`reset-all` コマンドを実行します。
- RSC コマンド行インタフェース (CLI) プロンプトで、`reset` コマンドを実行します。
- Solaris CLI プロンプトで、`reboot` コマンドを実行します。

これで、RSC の `rscadm resetrsc` コマンドは正しく機能します。

Sun Fire V880 サーバーに固有の RSC の注意事項

この節では、Sun Fire V880 サーバー上で動作している RSC にのみ影響する注意事項について説明します。

xir によるソフトリセットが正しく動作しない (BugID 4361396、4411330)

サーバーで `xir` コマンドを使用しても、期待したとおりにサーバーが ok プロンプトを表示しません。この問題は、サーバーの機種ごとに解決されています。ご使用のハードウェアプラットフォームについての『ご使用の手引き』を参照してください。

Sun Enterprise 250 サーバーに固有の RSC の注意事項

以下に、RSC を実行している Sun Enterprise 250 サーバーにのみ関連する注意事項を説明します。Sun Enterprise 250 サーバーに関するその他の注意事項については『Sun Enterprise 250 サーバーご使用にあたって』を参照してください。

RSC ユーザーアカウント数を増やせない

RSC 2.2 では、最大 16 人分の RSC ユーザーアカウントを設定できるようになりました。ただし、Sun Enterprise 250 サーバーの場合、ハードウェアの制限により、設定可能な RSC ユーザーアカウント数は、従来どおりの 4 までとなります。

RSC コンソールから OpenBoot PROM の fsck コマンドを実行してはいけない (BugID 4409169)

RSC コンソールから fsck コマンドを使用しないでください。

システムの ttya に対する入力デバイスと出力デバイスの設定をリセットします。そして、システムを再起動し、ローカルのコンソールまたは端末からシステムに接続して、OpenBoot PROM の fsck コマンドを直接実行します。

RSC コンソールから OpenBoot PROM の boot -s コマンドを実行してはいけない (BugID 4409169)

コマンド boot -s は、RSC コンソールでは動作しません。

システムの input-device および output-device 設定を ttya に設定します。次にシステムを再起動して、ローカルコンソールまたは端末からシステムにアクセスして直接 boot -s コマンドを実行します。

serial_hw_handshake 変数を変更した場合はシステムを再起動する必要がある (BugID 4145761)

RSC 設定変数 serial_hw_handshake の変更を有効にするには、サーバーを再起動する必要があります。RSC グラフィカルユーザーインターフェースの「ハードウェアハンドシェイク使用可能」チェックボックスの設定に関しても同様です。この注意事項はマニュアルには記載されていません。

GUI で表示される電源装置の警告の索引が間違っている (BugID 4521932)

Sun Enterprise 250 の電源は 0 および 1 という番号が付けられていますが、RSC の GUI は、イベントログと警告でこれらを電源 1 および電源 2 と呼んでいます。

Solstice DiskSuite と Alternate Pathing (BugID 4367639)

SPARCstorage™ Array 100 または SPARCstorage Array 200 に既に Alternate Pathing 2.3 または 2.3.1 をインストールして構成してある Sun Enterprise 6000 システムで、Solstice DiskSuite™ 4.1.2 metatool を起動するとセグメント例外が発生します。

metatool を起動した後、次のようなメッセージが表示されます。

```
root@[/]>metatool &
[1]      2569
root@[/]>Initializing metatool... Done.
Discovering drives and slices... metatool: Segmentation Fault
```

回避策: /usr/lib/libssd.so.1 と /usr/lib/libap_dmd.so.1 を /usr/sadm/lib/lvm に移動します。

SunFDDI と ディスクレス起動 (BugID 4390228)

SunFDDI PCI ボード (FDDI/P) はディスクレス起動をサポートしていません。
SunFDDI SBus ボード (FDDI/S) は、sun4m と sun4u プラットフォームでのみディスクレス起動をサポートしています。

複数の Sun GigaSwift Ethernet カードによりシステムがハングする (BugID 4336400, 4365263, 4431409)

システムに 2 枚以上の Sun GigaSwift Ethernet カードが装着されている場合、CPU 使用率が高くなるか、あるいはシステムがハングすることがあります。

cpr モジュールを実行した際にシステムがハングする (BugID 4466393)

Expert3D または Expert3D-Lite カードが装着されているシステムで Solaris 8 ソフトウェアのいずれかのバージョンを実行している場合、cpr 実行後に問題が発生することがあります。

回避策: パッチ 108576-15 以降をインストールしてください。

librt オブジェクトがマルチユーザーモードにならない (BugID 4479719)

セマフォを正しく作成しないと、SunVTS はマルチユーザーモードに移りません。

回避策: マシンがマルチユーザーモードになったら、SunVTS を実行する前に以下のように入力して picld を停止してから、再起動してください。

```
# /etc/init.d/picld stop
# /etc/init.d/picld start
```

ToolTalk データベースサーバーの脆弱性によりルートアクセスされる (BugID 4499995)

ToolTalk データベースサーバー (/usr/openwin/bin/rpc.ttdbserverd) を使用可能にしていると、遠隔側およびローカル側からの不正アクセスの可能性があります。この不正アクセスによって、システムへルートアクセスされる可能性があります。不正アクセスが行われると、「A」で始まる不要なファイルがシステムのルートディレクトリに作成されますので、不正アクセスが行われたシステムを特定することができます。

回避策: inetd.conf ファイルから、rpc.ttdbserverd について記述している行を削除します。chmod a-x コマンドを使用して /usr/openwin/bin/rpc.ttdbserverd のアクセス権を変更し、サーバーのサービスを使用不可にします。今後、配布されるパッチについては、購入先までお問い合わせください。

システム起動時の無効な警告 (BugID 4519441)

Netra ct 800 または Sun Blade™ 100 システムの起動時に、次に示す警告メッセージが表示される場合があります。

```
invalid vector intr:number 0x7de, pil 0x0
```

このメッセージはシステムの障害とは無関係なため、無視できます。

Sun ハードウェア AnswerBook に関する 注意事項

サプリメント CD に含まれている Sun ハードウェア AnswerBook の注意事項を以下に示します。

マニュアル内の相互参照

いくつかの AnswerBook マニュアルでは、マニュアル内に表示される相互参照 (リンク) が正しく表示されず、特定の文字列ではなく、段落全体にリンクされている場合があります。ただし、リンクは正常に機能します。

第4章

Sun Enterprise サーバー用 Alternate Pathing 2.3.1 の制限事項

Sun Enterprise サーバー用 Alternate Pathing 2.3.1

このセクションでは、Sun Enterprise 3x00、4x00、5x00、6x00、10000 サーバーで動作する Alternate Pathing (AP、代替パス) 2.3.1 についてのリリース情報を説明します。

AP を使用すると周辺機器への物理パスに対する代替パスを定義・制御できるため、サーバーの運用能力を向上させるとともに、障害発生時の復旧作業にも効力を発揮します。たとえば、あるデバイスに対する物理パスが使用できなくなっても、代替パスに切り換えて対応できます。詳細な情報については Alternate Pathing 2.3.1 Collection AnswerBook2 の中の『Sun Enterprise サーバー Alternate Pathing 2.3.1 ユーザーマニュアル』を参照してください。

AP の今後のサポートについて

従来の AP マルチパス入出力テクノロジーは、Sun StorEdge Traffic Manager と IPMP に代表される、よりスケーラブルで新しいテクノロジーに置き換わりつつあります。

これらの最新技術は、マルチパス全体に適したソリューションとともに、使いやすい洗練されたインタフェース (Solarisと統合) を提供します。また IPMP は、エラーを検出した場合に全自動でネットワークを切り替えることができます。

AP の入出力マルチパス機能を利用するという理由で AP を使用している場合は、インストールしている AP の構成を解除し、こうした新しい技術を用いて入出力マルチパス制御を行うことをお勧めします。

これら 3 種類の技術は、Solaris 8 リリースの間はサポートされますが、AP については Solaris 9 以降のリリースではサポートされません。

インストール作業

現在 AP 2.1 または 2.2 がインストールされている Solaris 2.5.1、2.6、7 システムを Solaris 8 にアップグレードする場合、AP 2.3 または AP 2.3.1 にアップグレードする必要があります。以下の節では、ボリュームマネージャに対する参照が含まれています (多くのシステムにボリュームマネージャがインストールされているため)。

注 – AP 2.3.1 のインストールは各 Solaris オペレーティング環境ごとに固有のもので、す。もし現在ご使用のシステムにすでに AP 2.3.1 がインストールされていて、近い将来に Solaris 8 へアップグレードしたい場合は、後述するアップグレードの手順に従って AP 2.3.1 を `pkgrm` コマンドで削除して、それから再インストールする必要があります。

このセクションではアップグレードの全手順の概要を示します。実際の作業ではその他のマニュアルの該当箇所を参照する必要があるため、アップグレードを開始する前に下記のマニュアルの説明を確認しておいてください。

- 『Solaris 8 HW 12/02 Sun ハードウェアマニュアル (補足)』 (Solaris 8 HW 12/02 メディアキットに印刷マニュアルが付属しています)
- 『Solaris 8 HW 12/02 Sun ハードウェアマニュアル』 (Solaris 8 HW 12/02 メディアキットに印刷マニュアルが付属しています。また、サプリメント CD に PDF 形式のファイルが含まれています)
- 『Sun Enterprise サーバー Alternate Pathing 2.3.1 ユーザーマニュアル』 (Solaris 8 HW 12/02 メディアキットのサプリメント CD に AnswerBook2 形式のファイルが含まれています)
- システムにインストールされているボリュームマネージャのユーザーマニュアル
- システムにインストールされているボリュームマネージャのその他のマニュアル

注 – アップグレードを開始する前に、システムにインストールされているボリュームマネージャが Solaris 8 に対応しているかどうか確認してください。



注意 – アップグレードを安全に行うため、必ずここに記載した作業手順に従ってください。

実行する作業の概要は、以下のようになります。

- ボリュームマネージャーの構成解除
- 以前のバージョンの AP の削除
- Solaris 8 オペレーティング環境へのアップグレード
- AP 2.3.1 のインストール
- ボリュームマネージャーのインストールと再構成

具体的には、以下の作業を実行する必要があります。

1. 『Solaris 8 HW 12/02 Sun ハードウェアマニュアル』の AP 2.3.1 に関する章を読む。
2. 未確認の AP メタデバイスは、すべて確認しておく (『Solaris 8 HW 12/02 Sun ハードウェアマニュアル』の AP 2.3.1 に関する章を参照)。
3. ソフトウェアの配布元によるマニュアルに従って、ボリュームマネージャーを構成解除する。

注 – AP については、ソフトウェアの配布元からボリュームマネージャーを構成解除するために推奨された作業がなければ、これ以外の手順を行う必要はありません。



注意 – ボリュームマネージャーを構成解除した時点で、まず旧バージョンの AP をシステムから削除してください。Solaris 8 ソフトウェアはまだインストールしないでください。

4. 『Solaris 8 HW 12/02 Sun ハードウェアマニュアル』の「現在の AP 構成情報を削除します。」を参照して、現在の AP 構成を削除する。
5. 『Solaris 8 HW 12/02 Sun ハードウェアマニュアル』の「Solaris オペレーティング環境にアップグレードする場合は、ここで行います。」を参照して、Solaris 8 にアップグレードする。
6. 『Solaris 8 HW 12/02 Sun ハードウェアマニュアル』の「AP 2.3.1 へアップグレードします。」を参照して、AP 2.3.1 へのアップグレードを行う。
7. ソフトウェアの配布元によるマニュアルに従って、ボリュームマネージャーをインストールする。

AP 2.3.1 にアップグレードする際、`ap_upgrade_begin` を実行したときに両方のパスがアクセス可能でないと、`ap_upgrade_finish` は完了しますがパスグループを再作成することはできなくなります。エラーメッセージは表示されません。

一般的な問題

このセクションでは、Sun Enterprise サーバー上で動作する AP の一般的な問題を記載しています。AP のインストールや設定を行う前に、このセクションを読んでおいてください。

注 – Sun Enterprise 10000 の全ドメイン上で AP 2.3.1 へのアップグレードを行う場合、SSP ワークステーションから `pkgrm` コマンドを使用して `SUNWapssp` パッケージを安全に削除することができます。ただし、いずれかのドメインに旧バージョンの AP が残っている場合、SSP ワークステーションからソフトウェアを削除することはできません。いずれの場合も、SSP ワークステーションから AP ソフトウェアを削除しても、AP 2.3.1 には影響はありません。

サポートしているデバイス

- `pln(soc)` コントローラの使用で AP に認識される Sun SPARCstorage™ Arrays
- `sf(socal)` または `fp(q1c)` コントローラの使用で AP に認識される Sun StorEdge A5000
- `sf(socal)` または `fp(q1c)` コントローラの使用で AP に認識される Sun StorEdge T3
- `sf(socal)` または `fp(q1c)` コントローラの使用で AP に認識される Sun Enterprise E3500 内部ドライブ
- SunFastEthernet™ 2.0 (`hme`)
- SunFDDI/S 6.0 (`nf`) SAS (Single-Attach Station) および DAS (Dual-Attach Station)
- SCSI-2/Buffered Ethernet FSBE/S および DSBE/S (`1e`)
- Quad Ethernet (`qe`)
- Sun Quad FastEthernet™ (`qfe`)
- Sun Gigabit Ethernet 2.0 (`ge`)

各リリースでサポートしているネットワークデバイスを以下の表に示します。

表 4-1 AP によるネットワークデバイスのサポート状況

AP のバージョン	Solaris のバージョン	ネットワークデバイス									ディスクコントローラ	ストレージ製品
		ge	hme	le	nf	bf	hi	qe	qfe	vge		
2.0	2.5.1		O	O	O	O	O	O	O		pln/soc	SSA
2.0.1	2.5.1		O	O	O	O	O	O	O		pln/soc、sf/socal	SSA、A5000
2.1	2.6	O	O	O	O			O	O	O	pln/soc、sf/soc	SSA、A5000
2.2	7	O	O	O	O			O	O		pln/soc、sf/socal、fp/qlc*	SSA、A5000
2.3	2.6	O	O	O	O			O	O	O	pln/soc、sf/socal	SSA、A5000、
	7	O	O	O	O			O	O		pln/soc、sf/socal、fp/qlc†	SSA、A5000、T3§
	8	O	O	O	O				O		pln/soc、sf/socal、fp/qlc	SSA、A5000、T3§
2.3.1	8	O	O	O	O				O		pln/soc、sf/socal、fp/qlc	SSA、A5000、T3
* AP 2.2 での fp/qlc サポートには Solaris 7 11/99 および AP 2.2 用のパッチが必要です。詳細については http://sunsolve.sun.com を参照してください。												
† fp/qlc のサポートには Solaris 7 11/99 または Solaris 8 が必要です。												
§ AP 2.3 は Sun StorEdge T3 用に最適化されていません。												

SunFDDI と GigabitEthernet デバイス

SunFDDI/S (バージョン 7.0) と GigabitEthernet (バージョン 2.0) に対しては、AP 2.3.1 の妥当性検査が実行されます。これらのデバイスをインストールする場合は、さらに新しいバージョンのものが存在しないかぎり、必ず検査済みのバージョンのものを使用する必要があります。さらに、このデバイスに対して有効なパッチはすべてインストールする必要があります。パッチの入手については、<http://sunsolve.sun.com/> (英文) を参照するか、購入先にお問い合わせください。

Sun StorEdge A3000

Sun StorEdge A3000 は AP 2.3.1 で提供されるものと同様のフェイルオーバー機能をサポートしています。このため、AP 2.3.1 は Sun StorEdge A3000 をサポートしていません。フェイルオーバー機能のサポートの詳細については Sun StorEdge A3000 の製品マニュアルを参照してください。

Sun StorEdge A5000

今回のリリースでは、AP 2.3.1 は Sun StorEdge A5000 をサポートしています。

Sun StorEdge A7000

今回のリリースでは、AP 2.3.1 は Sun StorEdge A7000 をサポートしていません。

Sun StorEdge T3

今回のリリースでは、AP 2.3.1 は、標準 AP 能動 / 受動 I/O 分配アルゴリズムとともに、Sun StorEdge T3 をサポートしています。

ソフトウェアの互換性

以下のリストは、Sun Enterprise サーバーにインストール可能な AP と Solaris ソフトウェアの組み合わせを示したものです。

- Solaris 8 上で AP 2.3.1 と DR
- Solaris 8 上で AP 2.3 と DR
- Solaris 7 上で AP 2.3.1 と DR
- Solaris 7 上で AP 2.3 と DR
- Solaris 7 上で AP 2.2 と DR
- Solaris 2.6 上で AP 2.3.1 と DR
- Solaris 2.6 上で AP 2.3 と DR
- Solaris 2.6 上で AP 2.1 と DR
- Solaris 2.5.1 上で AP 2.0.1 と DR (Sun Enterprise 10000 サーバーのみ)
- Solaris 2.5.1 上で AP 2.0 と DR (Sun Enterprise 10000 サーバーのみ)

注 – AP は DR モデル 3 をサポートしていません。DR モデル 3 は、Solaris 8 2/02 オペレーティング環境を実行している Sun Enterprise 10000 ドメイン上で動作します。AP がサポートしているのは、Sun Enterprise 10000 ドメイン上で動作する DR モデル 2 となります。DR モデル 3 と互換性を持つマルチパスソフトウェアについての詳細は、『SSP 3.5 インストールマニュアルおよびご使用の手引き』を参照してください。

AP パッチ

インストール可能な AP パッチについては、以下の URL の SunSolve ウェブサイトを定期的にチェックし、推奨パッチをインストールしてください。

<http://sunsolve.Sun.com>

動的再構成 (DR) の問題

DR 接続操作は、即時に AP にアクセス可能なコントローラがなくても、実行可能です。apconfig を使用して新しいコントローラに切り替える前に、物理デバイスが存在するか確認する必要があります。

Solaris 2.6 オペレーティング環境の稼働する Sun Enterprise 10000 サーバーで、AP 2.3.1 の実行のために dr_daemon を正しく動作させるには、パッチ 106284-02 が必要となります。

起動ディスクの問題

AP 2.3.1 では、各ドメインに対して 1 つの起動ディスクとそのミラーディスクへの代替パスをサポートします。

起動回復処理中は、ディスク間の不整合を修正するために、起動ディスクへのデバイスエイリアスはサポートされません。

AP 2.3.1 では、起動回復はアーキテクチャーに依存します。起動回復処理が可能なのは、Sun Fire および Sun Enterprise 6x00、5x00、4x00、3x00、10000 プラットフォームです。

IPMPの問題

このリリースでは IPMP/AP パスグループはサポートされていません。

Sun Fibre Channel Port Driver (qlc/fp) の問題

qlc/fp を使用した SENA (Sun Enterprise Network Array) デバイスは、socal/sf を使用した SENA デバイスとは異なる物理デバイスとみなされます。SENA デバイスは qlc/fp ドライバと socal/sf ドライバが単一の SENA デバイスをサービスするような構成をサポートしません。従って、1 つの AP メタデバイス上でこれら 2 つのデバイスを混合して使用することはできません。

物理 SENA デバイス上のファームウェアでファイバチャネル用に使用するドライバを socal/sf から qlc/fp へ変更する手順は、通常のハードウェアコントローラの変更手順と同様です。ファームウェアの変更前に、まずコントローラ上で動作している AP を例えば以下のように構成解除します。

```
# apdisk -d sf:0
# apdb -C
```

次にファームウェアを変更します。

ファームウェアの変更後、以下のように新しいデバイス名を使用してパスグループを再作成します。

```
# apdisk -c -p fp:0 -a fp:1
# apdb -C
```




注意 – AP を構成解除せずにファームウェアを変更すると、新しい代替パスコントローラを介したファイルシステムが認識されなくなる場合があります。もしそのファイルシステムがシステムの起動に必要であった場合、システムが起動できなくなります。

AP のオンラインマニュアル

AP 2.0 と 2.0.1 のマニュアルは、<http://docs.sun.com/> の Hardware → Enterprise Servers にあります。

AP 2.1 と 2.2 のマニュアルは、<http://docs.sun.com/> の Hardware → Solaris on Sun Hardware Answerbook Collection Japanese にあります。

AP 2.3 のマニュアルは、<http://docs.sun.com/> の Enterprise サーバー → Alternate Pathing 2.3 Collection - Japanese にあります。

AP 2.3.1 のマニュアルは、<http://docs.sun.com/> の Enterprise サーバー → Sun Enterprise Server Alternate Pathing 2.3.1 Collection - Japanese にあります。

既知の障害

認識されない (unplumbed) メタネットワークへの切り替え時のパニック (BugID 4361968)

解決された障害

以下に示すのは、DR の前回のリリース以降に解決された主要な障害です。この一覧には、重要でない障害およびパッチによって解決された障害は含まれていません。

DR 構成直後の AP によるパス切り替えにより、強制的に「T」状態になる (BugID 4265982)。

FC ハブやファブリック・デジチェーンなどの個々のターゲットへの AP 処理は失敗する (BugID 4276330)。

Sun Enterprise 3500 と内蔵ミラーディスクの接続が AP と sds で無効になる (BugID 4297492)。

Sun StorEdge T3 Array パートナーグループまたは 2x2 拡張での ctrl フェイルオーバー中の読み取り/書き込みエラー (BugID 4342963)。

多重 .probe 実行による UNIX ホスト上の LUN の ENODEV での障害 (BugID 4347014)。

.probe による ctrl 初期化直後の Sun StorEdge T3 ONLINE MASTER からの ENXIO (BugID 4347016)。

その他の障害

このセクションでは、AP 2.3.1 および Solaris 8 で見つかったより重要度の高い障害の症状と BugID を記述します。全ての障害が含まれているわけではありません。

解決されたその他の障害

ssd: シリアル番号が *Unit Serial Number page* から取得できない (BugID 4295457)

説明: AP は Sun デバイス ID 関数、特に `ddi_devid_compare()` に依存します。AP のサポートするデバイスは Sun デバイス ID と正しくインタフェースしなければなりません。インタフェースが正しく行われるには障害 (Sun BugID 4295457) が解決されていなければなりません。この障害を解決するためには以下のパッチが必要となります。

- 105356-16 (Solaris 2.6 用)
- 107458-10 (Solaris 7 用)
- 109524-04 (Solaris 8 用)

解決策: これらのパッチは <http://sunsolve.sun.com> の SunSolve のサイトから入手できます。

qfe ドライバが、*DL_ENABMULTI_REQ* プリミティブに対して *DL_OK_ACK* で応答しない (BugID 4241749)

Solaris 7 オペレーティング環境のシステムで qfe コントローラを使用している場合は、パッチ 107743-06 をインストールして、システム内のバスグループを qfe コントローラに切り替える際にシステムがハングすることを避ける必要があります。

解決策: パッチ 107743-06 は <http://sunsolve.sun.com> の SunSolve のサイトから入手できます。

第5章

Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの制限事項

この章では、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムで Solaris オペレーティング環境を使用する際の注意事項について説明します。

Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム

この節では、Solaris オペレーティング環境の使用方法に関する情報を示します。

システム構成情報の表示

`prtdiag` コマンドは、システム構成パラメタを表示する Solaris オペレーティング環境コマンドの 1 つです。本リリースのオペレーティングシステムの『Sun ハードウェアマニュアル』に記載されているこのコマンドに関する情報は不正確なものです。以下に正しい情報を示します。

Solaris オペレーティング環境の `prtdiag (1M)` コマンドは、使用している Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムのドメインに関する次の情報を表示します。

- 構成
- 診断
- メモリーの合計容量 (`prtconf` コマンドの実行結果と同じ表示)

Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム 上の動的再構成

動的再構成 (DR) は、Solaris 8 HW 12/02 でサポートされています。この節では、このリリースの時点で Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム上の DR に関する制限事項について説明します。

注 - DR 機能を組み込んだシステムコントローラファームウェアについては、5.12.6 ファームウェアリリースに添付されている『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムソフトウェアご使用にあたって』を参照してください。このファームウェアと関連マニュアルは、SunSolve Web サイト (<http://sunsolve.Sun.com>) から入手可能な SunSolve パッチ 112127-02 に含まれています。

この章では、Sun Fire 6800、4810、4800、3800 システムでの動的再構成 (DR) に関する次のトピックについて説明しています。

- 61 ページの「動的再構成ソフトウェアのインストール手順」
- 64 ページの「DR の既知の制限事項」
- 68 ページの「動的再構成ソフトウェアのバグ」

システム固有の DR サポート

Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムにおけるシステム固有の DR サポートは、`cfgadm` コマンドによって表示されます。システムボードは、クラス `"sbd"` として示されます。CompactPCI (cPCI) カードは、クラス `"pci"` として示されます。DR のユーザーには、`cfgadm` インタフェースにより、これ以外の DR クラスも同様に表示されます。

DR に関するシステム固有の問題の詳細については、68 ページの「既知の動的再構成のバグ」を参照してください。

接続点に関連するクラスを表示するには、スーパーユーザーとして次のコマンドを実行してください。

```
# cfgadm -s "cols=ap_id:class"
```

動的接続点は、`cfgadm` コマンドに `-a` オプションを付けて示すこともできます。特定の接続点のクラスを判定するには、上記のコマンドの引数としてその接続点を追加します。

動的再構成ソフトウェアのインストール手順

Solaris 8 HW 12/02 オペレーティング環境とバージョン5.12.6 のシステムファームウェアで、Sun Fire システムでの DR をサポートしています。

また、Sun Management Center (SunMC) をインストールすることもできます。詳細については、『Sun Management Center 3.0 ソフトウェア Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムのための追補マニュアル』を参照してください。

システムファームウェアのアップグレード

Sun Fire システムのファームウェアのアップグレードは、ファームウェアイメージが格納されている FTP サーバーまたは HTTP サーバーからの FTP 接続または HTTP 接続を介して行われます。詳細については、『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムプラットフォーム管理ガイド』を参照してください。

注 – ファームウェアパッチのインストールに関する追加情報は、パッチに添付されている README ファイルと Install.info ファイルから入手できます。



注意 – 必ずCPU/メモリーボードおよび I/O アセンブリのファームウェアをすべて更新してから、システムコントローラのファームウェアを更新してください。CPU/メモリーボードおよび I/O アセンブリのファームウェアがシステムコントローラのファームウェアと異なると、ドメインを起動できない場合があります。

▼ システムファームウェアをアップグレードする

1. FTP サーバーまたは HTTP サーバーを設定します。

詳細については、『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムプラットフォーム管理ガイド』(Part No. 806-7904-11) の付録 B を参照してください。

2. バージョン 5.12.6 のファームウェアをダウンロードします。

このファームウェアと関連マニュアルは、SunSolve Web サイトから入手可能な SunSolve パッチ 112127-02 に含まれています。このサイトのアドレスは、次のとおりです。

<http://sunsolve.Sun.COM/pub-cgi/show.pl?target=patches/patch-access>

3. 次のコマンドを使用して、FTP サーバーまたは HTTP サーバーにパッチをコピーします。

```
# cp /patch_location/* /export/ftp/pub/5.12.6
```

4. ファームウェアをアップグレードする場合は、システムコントローラのコンソール (シリアルポート) に接続してシステムを監視します (手順 6)。

システムコントローラのプロンプトは次のとおりです。

```
shostname:SC>
```

5. Solaris オペレーティング環境を停止して、すべてのドメインを停止します。

ドメインのキースイッチの位置は on のままにします。

6. 手順5 で停止した各ドメインで、キースイッチの位置を standby に設定します。

```
shostname:A> setkeyswitch standby
```

7. システムコントローラのプラットフォームシェルで showboards コマンドを実行して、すべてのCPU/メモリーボードと I/O アセンブリの電源が投入されているかどうかを検査します。

```
shostname:SC> showboards
```

8. CPU/メモリーボードまたは I/O アセンブリのどれかの電源が投入されていない場合は、システムコントローラのプラットフォームシェルで poweron コマンドを使用して、これらの部品に電源を投入します。

```
shostname:SC> poweron component_names
```

9. システムコントローラのプラットフォームシェルで flashupdate コマンドを使用して、ファームウェアをアップグレードします。



注意 – この操作の実行中は、システムの電源を切断したり、システムをリセットしたりしないでください。

URL プロトコルに適したコマンド構文を使用してください。

```
schostname:SC> flashupdate -f URL all
```

flashupdate コマンドは、システムコントローラを再起動して、CPU/メモリーボードと I/O アセンブリの scapp と RTOS をアップグレードします。

注 – scapp 5.12.5 以上と RTOS 18 以上を実行している場合、このアップグレード手順では、インストールされるイメージが現在インストールされているイメージと異なる場合にのみ scapp と RTOS が更新されます。

10. システムコントローラが正常に再起動したら、各ドメインのコンソールに接続して、キースイッチの位置を `off` に設定して、CPU/メモリーボードと I/O アセンブリの電源をオフにします。

```
schostname:A> setkeyswitch off
```

11. システムコントローラのプラットフォームシェルで `showboards` コマンドを実行して、すべての CPU/メモリーボードと I/O アセンブリの電源がオフになったかどうかを検査します。

```
schostname:SC> showboards
```

12. CPU/メモリーボードまたは I/O アセンブリのいずれかの電源が切断されていない場合は、システムコントローラのプラットフォームシェルで `poweron` コマンドを使用して、これらの部品の電源を切断します。

```
schostname:SC> poweroff component_names
```

13. キースイッチを `on` に設定して、各ドメインを起動します。

```
schostname:A> setkeyswitch on
```

14. すべてのドメインが起動したら、`dumpconfig` コマンドを使用して、システムコントローラの構成バックアップを更新します。

```
schostrname:SC> dumpconfig -f URL
```

ここで、`URL` には `ftp` プロトコルを指定します。

DR の既知の制限事項

この節では、Sun Fire 6800、4810、4800、3800 の各システムに関する DR ソフトウェアの既知の制限事項を説明します。

一般的な DR の制限事項

- `addboard` コマンド行インタフェース (CLI) のコマンドをシステムコントローラ (SC) に対して実行するなど、DR 手順を使用しないでドメインにシステムボードを追加する場合は、`setkeyswitch off` コマンドを実行してから `setkeyswitch on` コマンドを実行して、そのボードをシステムで有効にする必要があります。
- DR ソフトウェアのこのリリースは、Sun StorEdge Traffic Manager をサポートしていません。
- I/O (IBx) ボードに DR 操作を実行するには、まず次のコマンドを入力して、`vold` デーモンを停止してください。

```
# sh /etc/init.d/volmgt stop
```

DR 操作が正常に終了したら、次のコマンドを入力して、`vold` デーモンを再開します。

```
# sh /etc/init.d/volmgt start
```

- Sun Fire 6800、4810、4800、3800 システムにおいて、DR は、HIPPI/P、SAI/P (BugID 4466378)、SunHSI/P ドライバ (BugID 4496362) のいずれもサポートしていません。
- `devfsadm (1M)` コマンドを実行して、何か変更が加えられていないか (特に PCI から `cPCI` への変更) 確認する必要があります。

- DR 操作中は、システムコントローラ (SC) の再起動もリセットも行わないでください。また、完了時に再起動が必要な `flashupdate` コマンドも実行しないでください。

CompactPCI に固有の制限事項

- CompactPCI (cPCI) I/O アセンブリは、ボード内のすべてのカードが構成解除された状態にある場合にのみ構成解除できます。cPCI カードのいずれかが使用中の場合 (`plumbed/up` インタフェースやマウントされたディスクなどによって)、ボードの構成解除操作は状態 “`busy`” によって失敗します。すべての cPCI カードの構成解除をしてから、cPCI I/O アセンブリの構成解除をする必要があります。
- マルチバスディスクが 2 つの cPCI カードに接続されている場合、何もない状態でも、これらのカードでディスクが動作していると示される可能性があります。このため、リソースのローカルサイドで何も動作していないことを確認してください。この症状は、リソースのローカルサイドで何も動作していない場合でも、ビジー状態を示す cPCI カードに対して DR 操作を実行しようとするとき発生するものと思われます。しばらくたってから DR を実行する必要があります。
- ユーザーが `cfgadm(1M)` コマンドに `-a` オプションを付けて接続点を一覧表示した場合、cPCI スロットと PCI バスはすべて接続点として表示されます。`cfgadm -a` コマンドは、PCI バスの接続点を `N0.IB8::pci0` と表示します。このような接続点は cPCI ボードごとに 4 つあります。ユーザーは、これらの接続点に対しても、`cfgadm -a` コマンドが `N0.IB8::sghsc4` と表示する `sghsc` 接続点に対しても、DR 操作を実行してはなりません。これは、DR が実際には実行されず、内部リソースの一部が削除されるためです。ただし、この操作を行っても障害はありません。
- DR で cPCI カードを正常に機能させるには、Solaris 起動時に挿入されたすべての cPCI カードのレバーを完全に下げて固定する必要があります。

cPCI ネットワークインタフェース (IPMP) をオンラインまたはオフラインにする手順

▼ cPCI ネットワークインタフェース (IPMP) をオフラインにして削除する

1. 次のコマンドを入力して、グループ名、テストアドレス、インタフェース索引を取り出します。

```
# ifconfig <interface>
```

例: `ifconfig hme0`

2. `if_mpadm(1M)` コマンドを次のように使用します。

```
# if_mpadm -d <interface>
```

これにより、インタフェースはオフラインになり、そのフェイルオーバーアドレスが、グループ内の別のアクティブインタフェースにフェイルオーバーされます。インタフェースがすでに失敗した状態にある場合、この操作では、インタフェースがオフラインになっていることの確認だけが行われます。

3. (オプション) インタフェースを `unplumb` します。

この操作は、しばらくたってから DR を使用してインタフェースを自動的に再構成する場合にのみ必要です。

4. 物理インタフェースを削除します。

詳細については、`cfgadm(1M)` マニュアルページと『Sun Fire 6800, 4810, 4800, 3800 システム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』を参照してください。

▼ cPCI ネットワークインタフェース (IPMP) を接続してオンラインにする

- 物理インタフェースを接続します。

詳細については、`cfgadm(1M)` マニュアルページと『Sun Fire 6800, 4810, 4800, 3800 システム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』を参照してください。

接続した物理インタフェースは、ホスト名構成ファイル (`/etc/hostname.interface`、`interface` は `hme1` や `qfe2` などの値を示す) の設定を使用して自動的に構成されます。

これによって、`in.mpathd` デーモンが検索を開始して修復を検出します。この結果、`in.mpathd` は、元の IP アドレスをこのインタフェースにフェイルバックします。これでインタフェースがオンラインになって、IPMP で使用する準備ができません。

注 – インタフェースが `unplumb` されておらず、以前の切り離しの前にオフライン状態に設定されている場合、ここで説明した接続操作では、インタフェースは自動的に構成されません。インタフェースをオンラインの状態に戻して、物理接続の完了後にその IP アドレスをフェイルバックするには、次のコマンドを入力してください。

```
if_mpadm -r interface
```

オペレーティングシステムの休止

この節では、固定メモリーと、固定メモリーを搭載したシステムボードを構成解除するときオペレーティングシステムを休止する条件について説明します。

ボードに固定メモリーが搭載されているかどうかを簡単に判定するには、スーパーユーザーで次のコマンドを実行します。

```
# cfgadm -av | grep permanent
```

システムボード 0 (ゼロ) を示す次のような出力が表示されます。

```
N0.SB0::memory connected configured ok base address 0x0, 4194304  
KBytes total, 668072 KBytes permanent
```

固定メモリーとは、Solaris のカーネルとそのデータが常駐する場所をいいます。他のボードに常駐するユーザープロセスはスワップデバイスにページングされることによってメモリーを解放できますが、これと同じ方法でカーネルをメモリーから解放することはできません。かわりに cfgadm は、コピーと名前の変更という方式を使用してメモリーを解放します。

コピーと名前の変更の操作では、まずすべての入出力操作と動作中のスレッドを一時停止してシステム上のすべての動作中のメモリーを停止します。この処置は、**休止**と呼ばれます。休止中、システムは停止されて、ネットワークパケットなどの外部イベントに応答しません。休止期間は、2 つの要因に依存します。それは、停止する必要がある入出力デバイスとスレッドの数、およびコピーする必要があるメモリーの量です。一般的には、入出力デバイスを一時停止または一時停止解除する必要があるため、通常は入出力デバイスの数によって必要な休止時間が決まります。通常、休止状態は 2 分以上続きます。

休止による影響は大きいので、cfgadm は、休止を行う前に確認を要求します。次のように入力したとします。

```
# cfgadm -c unconfigure N0.SB0
```

確認のために次のプロンプトが表示されます。

```
System may be temporarily suspended, proceed (yes/no)?
```

SunMC を使用して DR 操作を実行する場合は、ポップアップウィンドウにこのプロンプトが表示されます。

yes と入力して、休止の影響を受け入れて作業を進めてください。

動的再構成ソフトウェアのバグ

この節では、DR のテスト中に検出された重要なバグの概要とサンの BugID 番号を説明します。この一覧には、すべてのバグが含まれているわけではありません。

既知の動的再構成のバグ

動的再構成によって CPU ボードを削除した後で cryptorand が終了した (BugID 4456095)

説明: SUNWski パッケージに含まれている cryptorand プロセスが実行されている場合、CPU/メモリー (SB) ボードの切り離しの一部など、メモリーの構成解除を行うと、cryptorand は閉じて、/var/adm/messages にメッセージが記録されます。これにより、サブシステムをセキュリティー保護するために乱数サービスが拒否されて、cryptorand の開始時に存在したすべてのメモリーの構成解除ができなくなります。

cryptorand プロセスは、/dev/random に乱数を提供します。cryptorand の開始後、/dev/random が使用可能になるまでの時間はシステム内のメモリーの量によって異なります。1 GBのメモリーごとにおよそ 2 分かかります。/dev/random を使用して乱数を取得するアプリケーションでは、一時的な障害が生じます。CPU/メモリーボードがドメインに追加される場合は、必ずしも cryptorand を再起動する必要はありません。

回避策: CPU/メモリーボードがドメインから削除された場合は、スーパーユーザーとして次のコマンドを入力して、cryptorand を再起動します。

```
# sh /etc/init.d/cryptorand start
```

SBM が原因で DR 操作中にシステムパニックが生じる場合がある (BugID 4506562)

説明: Solaris Bandwidth Manager (SBM) の使用中に CPU を搭載したシステムボードがシステムから削除されると、パニックが生じることがあります。

回避策: DR の試行に使用されるシステムには SBM をインストールしないでください。また、SBM がインストールされたシステムに対して、CPU システムボード DR 操作を実行しないでください。

DR が、IB ボードで `vxdmpadm policy=check_all` を使用しての構成操作中にハングアップする (BugID 4509462)

説明: DR 構成操作が、数回正常に繰り返された後で IBx (I/O) ボードでハングアップします。この状態は、DR 操作が、ある間隔でポリシー `check_all` を実行中の DMP デーモンと同時に実行されると発生します。

回避策: DMP デーモンとシステムボード DR の間のデッドロックを回避するには、次のコマンドを入力してから DR 操作を実行します。このコマンドは、DMP デーモンを停止して再起動します。

```
# /usr/sbin/vxdmpadm stop restore
```

DR を使用して SCSI コントローラを切り離すことができない (BugID 4446253)

説明: SCSI コントローラが構成されているが使用中ではない場合、DR `cfgadm (1M)` コマンドを使用してこれを切り離すことはできません。

回避策: なし。

マルチスレッド環境の `cfgadm_sbd` プラグインが壊れている (BugID 4498600)

説明: `cfgadm` ライブラリのマルチスレッドクライアントが同時に `sbd` 要求を発行すると、システムがハングアップする可能性があります。

回避策: なし。現在、`cfgadm` ライブラリのマルチスレッド使用を実装している既存のアプリケーションはありません。

CPU 電源制御が同時に実行されている場合、DR 操作が数回ループした後でハングアップする (BugID 4114317)

説明: 複数の並行 DR 操作が行われるか、または `psradm` が DR 操作と同時に実行される場合、`mutex` のデッドロックが原因でシステムがハングアップする可能性があります。

回避策: DR 操作を順番に (DR 操作を一度に 1 つずつ) 実行して、各操作が正常に終了してから、`psradm` を実行するか、または別の DR 操作を開始してください。

SNMP が使用可能で DR 操作を実行しているときに、SC コンソールバスエラーが検出される (BugID 4485505)

説明: コンソールバスエラーメッセージは、cpuModDescr オブジェクトに対する SNMP get 操作中に生成されることがあります。この現象はほとんど発生せず、SunMC がシステムを監視している場合にのみ起こります。このメッセージが表示されると、cpuModDescr オブジェクトの値として、SunMC に unknown が返されます。

回避策: この回避策は、SunMC を使用しないという方法だけです。ただしこのメッセージ自体に害はなく、障害はほとんど発生しないため、無視しても問題ありません。唯一の問題点は、SunMC GUI が、cpuModDescr の間違った値を表示する場合がありますという点だけです。

send_mondo_set がタイムアウトすると、システムがパニック状態になる (BugID 4518324)

Sun Fire システムは、DR 操作中に 1 つまたは複数の CPU ボードの一時停止を同期させると、パニック状態になる場合があります。同期一時停止は、ボードの接続または切り離しを行うために必要です。未処理の mondo 割り込みがあつて、何らかの理由で SC が 1 秒という send_mondo timeout の制限内に同期一時停止を終了できないと、システムはパニック状態になります。

第6章

Sun Enterprise ミッドレンジシステムの制限事項

この章では、Solaris 8 オペレーティング環境を実行している Sun Enterprise システムに関する最新の情報について説明します。対象となるシステムは、Sun Enterprise 6500、6000、5500、5000、4500、4000、3500、および 3000 の各システムです。

Solaris 8 オペレーティング環境は、上記のシステムに実装される CPU、メモリーボード、およびほとんどの入出力ボードをサポートしています。

Sun Enterprise 6x00、5x00、4x00、3x00 システム用動的再構成 (Dynamic Reconfiguration)

このリリースノートは、Solaris 8 HW 12/02 上で実行される Sun Enterprise 6x00、5x00、4x00、3x00 用 Dynamic Reconfiguration (DR、動的再構成) の最新情報について説明しています。DR の詳細については、『Sun Enterprise 6x00、5x00、4x00、3x00 システム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』を参照してください。

Solaris 8 HW 12/02 は、Sun Enterprise 6x00、5x00、4x00、3x00 システムの CPU/メモリーボードをサポートしています。

サポートするハードウェア

DR を実行する前に、システムが動的再構成をサポートしていることを確認してください。コンソールやコンソールログに以下のようなメッセージが表示された場合は、ハードウェアが動的再構成をサポートしていないことを示しています。

```
Hot Plug not supported in this system
```

サポートしている I/O ボードについては、以下の Web サイトの「Solaris 8 HW 12/02」に関する記述を参照してください (英文)。

<http://sunsolve5.sun.com/sunsolve/Enterprise-dr/>

I/O ボードのタイプ 2 (グラフィックス)、タイプ 3 (PCI)、タイプ 5 (グラフィックスと SOC+) は現在サポートされていません。

ファームウェアに関する注意事項

FC-AL ディスクアレイまたは内蔵ディスク

Sun Enterprise 3500 システムの Sun StorEdge A5000 ディスクアレイまたは内蔵 FC-AL ディスクのファームウェアのバージョンは、ST19171FC 0413 以降が必要です。詳細については、以下の Web サイトの「Solaris 8」に関する記述を参照してください (英文)。

<http://sunsolve5.sun.com/sunsolve/Enterprise-dr/>

CPU と I/O ボードのための PROM の更新

Solaris 8 HW 12/02 オペレーティング環境上で DR を使用するには、CPU PROM のバージョンが 3.2.22 (ファームウェアパッチ 103346-xx) 以降である必要があります。ファームウェアは Web サイトでも提供しています。詳細については、73 ページの「ファームウェアの入手」を参照してください。

CPU PROM のバージョンが古い場合は、起動時に以下のメッセージが表示されます。

```
Firmware does not support Dynamic Reconfiguration
```




注意 - CPU PROM バージョンが 3.2.16 以前の場合、CPU/メモリーボードの動的再構成はサポートされていませんが、このメッセージは表示されません。

- 現在の PROM バージョンを確認するには、ok プロンプトから `.version` および `banner` コマンドを入力します。

以下のような情報が出力されます。

```
ok .version
Slot 0 - I/O Type 1 FCODE 1.8.22 1999/xx/xx 19:26 iPOST 3.4.22 1999/xx/xx 19:31
Slot 1 - I/O Type 1 FCODE 1.8.22 1999/xx/xx 19:26 iPOST 3.4.22 1999/xx/xx 19:31
Slot 2 - CPU/Memory OBP 3.2.22 1999/xx/xx 19:27 POST 3.9.22 1999/xx/xx 19:31
Slot 3 - I/O Type 4 FCODE 1.8.22 1999/xx/xx 19:27 iPOST 3.4.22 1999/xx/xx 19:31
Slot 4 - CPU/Memory OBP 3.2.22 1999/xx/xx 19:27 POST 3.9.22 1999/xx/xx 19:31
Slot 5 - CPU/Memory OBP 3.2.22 1999/xx/xx 19:27 POST 3.9.22 1999/xx/xx 19:31
Slot 6 - CPU/Memory OBP 3.2.22 1999/xx/xx 19:27 POST 3.9.22 1999/xx/xx 19:31
Slot 7 - CPU/Memory OBP 3.2.22 1999/xx/xx 19:27 POST 3.9.22 1999/xx/xx 19:31
Slot 9 - CPU/Memory OBP 3.2.22 1999/xx/xx 19:27 POST 3.9.22 1999/xx/xx 19:31
Slot 11 - CPU/Memory OBP 3.2.22 1999/xx/xx 19:27 POST 3.9.22 1999/xx/xx 19:31
Slot 12 - CPU/Memory OBP 3.2.22 1999/xx/xx 19:27 POST 3.9.22 1999/xx/xx 19:31
Slot 14 - CPU/Memory OBP 3.2.22 1999/xx/xx 19:27 POST 3.9.22 1999/xx/xx 19:31
ok banner
16-slot Sun Enterprise E6500
OpenBoot 3.2.22, 4672 MB memory installed, Serial #xxxxxxxx.
Ethernet address 8:0:xx:xx:xx:xx, Host ID: xxxxxxxx.
```

ファームウェアの入手

ファームウェアの更新については、以下の Web サイトの「Solaris 8」に関する記述を参照してください (英文)。

<http://sunsolve5.sun.com/sunsolve/Enterprise-dr/>

この Web サイトでは、以下の操作についての情報を提供しています。

- DR 対応の PROM ファームウェアのダウンロード
- PROM の更新

この Web サイトにアクセスできない場合は、購入先にお問い合わせください。

ソフトウェアに関する注意事項

動的再構成を有効にする

/etc/system ファイルで、動的再構成を有効にするためには 2 つの変数を設定します。また、CPU/メモリーボードの取り外しを有効にするために 1 つの変数を設定してください。

1. root でログインします。
2. 動的再構成を有効にするには、/etc/system ファイルを編集し、以下の行を追加してください。

```
set pln:pln_enable_detach_suspend=1
set soc:soc_enable_detach_suspend=1
```

3. CPU/メモリーボードを有効にするには、/etc/system ファイルを編集し、以下の行を追加してください。

```
set kernel_cage_enable=1
```

この変数の設定により、メモリーの構成解除が可能になります。

4. 変更を有効にするには、システムを再起動してください。

休止テスト

システムの規模が大きい場合は、休止テストコマンド `cfgadm -x quiesce-test sysctrl0:スロット番号` の実行に 1 分以上の時間を費やす場合もあります。この間、`cfgadm` が互換性のないドライバを検出しなかった場合はメッセージはまったく表示されませんが、これは正常な動作です。

使用不可ボードリスト

使用不可ボードリストに登録されているボードに接続処理を実行しようとする、以下のエラーメッセージが返されることがあります。

```
# cfgadm -c connect sysctrl0:スロット番号
cfgadm: Hardware specific failure: connect failed: board is
disabled: must override with [-f][-o enable-at-boot]
```

- 特定の使用不可ボードについて、リストへの登録を無効にして使用可能な状態にするには、強制フラグ (-f) または使用可能設定オプション (-o enable-at-boot) を付けて `cfgadm` コマンドを実行します。

```
# cfgadm -f -c connect sysctrl0:スロット番号
```

```
# cfgadm -o enable-at-boot -c connect sysctrl0:スロット番号
```

- 使用不可ボードリストからすべてのボードを削除するには、以下のシステムコマンドを入力して、`disabled-board-list` 変数の設定を解除します。

```
# eeprom disabled-board-list=
```

- OpenBoot プロンプトから設定する場合は、以下のコマンドを使用して、使用不可ボードリストからすべてのボードを削除します。

```
OK set-default disabled-board-list
```

`disabled-board-list` 変数の設定については、『特記事項: Sun Enterprise 6x00、5x00、4x00、3x00 システム』の「NVRAM 変数」の節を参照してください。

使用不可メモリーリスト

OpenBoot PROM コマンドの `disabled-memory-list` 変数の設定については、『特記事項: Sun Enterprise 6x00、5x00、4x00、3x00 システム』の「固有の NVRAM 変数」の節を参照してください。

切り離し危険ドライバの読み込み解除

切り離し危険ドライバの読み込みを解除するには、`modinfo(1M)` コマンドを使用してドライバのモジュール ID を確認し、`modunload(1M)` コマンドでその ID を指定します。

インタリーブ方式のメモリー

インタリーブ方式のメモリーを搭載したメモリーボードや CPU/メモリーボードを動的に構成解除することはできません。

ボードにインタリーブ方式のメモリーが搭載されているかどうかは、`prtdiag` コマンドまたは `cfgadm` コマンドで確認できます。

CPU/メモリーボードで DR 機能を利用できるようにするには、NVRAM の `memory-interleave` 変数を `min` に設定します。

インタリーブ方式のメモリーについては、77 ページの「重大なリセット操作を実行後、メモリーが不適切にインタリーブされる (BugID 4156075)」および 78 ページの「動的再構成: インタリーブ方式のメモリーを搭載した CPU/メモリーボードを構成解除できない (BugID 4210234)」を参照してください。

接続処理中のセルフテストの失敗

DR 機能を利用してボードに接続処理を実行しているときに「`cfgadm: Hardware specific failure: connect failed: firmware operation error`」というメッセージが表示された場合は、ボードのセルフテストでエラーが発生しています。すぐにシステムからボードを取り外してください。ボードを取り外すことで、システムの再起動時に再構成エラーが起こるのを回避できます。

失敗した操作をすぐに実行し直す場合は、ボードをいったん取り外して操作可能な状態に戻してから、取り付け直してください。

既知の障害

障害とパッチに関する最新の情報は、<http://sunsolve5.sun.com/sunsolve/Enterprise-dr/> (英文) を参照してください。

`cfgadm -v` による状態表示でシステムの状態を判別できない (BugID 4149371)

メモリーテストの実行中は、テストを継続していることを示すメッセージが随時表示されます。しかし、テストが長時間になると、システムがハングしてもそれを判別するのは容易ではありません。

回避策: 別のシェルまたはウィンドウから `vmstat (1M)`、`ps (1)` あるいはこれと同様の機能のシェルコマンドを実行して、システムの処理状況を監視します。

重大なリセット操作を実行後、メモリーが不適切にインタリーブされる (BugID 4156075)

Sun Enterprise x500 サーバーに対して不正なリセット操作が実行されると、メモリーが不適切にインタリーブされた状態になり、以降の DR 操作は失敗します。この問題は、メモリーインタリーブの設定が min になっているシステムでのみ発生します。

回避策: 以下の 2 つの方法があります。

- すでに問題が発生している場合は、OK プロンプトから手動でシステムをリセットします。
- 問題が生じる前にそれを回避するには、NVRAM の `memory-interleave` 変数を max に設定します。これにより、システム起動時にメモリーが常にインタリーブされるようになります。ただし、インタリーブ方式のメモリーを搭載したメモリーボードを動的に構成解除することはできないので、必ずしも推奨される方法ではありません。78 ページの「動的再構成: インタリーブ方式のメモリーを搭載した CPU/メモリーボードを構成解除できない (BugID 4210234)」を参照してください。

CPUを構成後、vmstat の結果が正しく出力されない (BugID 4159024)

CPU を構成後に vmstat コマンドを実行すると、異常に大きな割り込み回数の値が表示されます。vmstat をバックグラウンドで実行するとこのような結果になりますが、これはエラーではありません。下の例では、最終行の割り込み (in) フィールドの値が 4294967216 になっています。

#	procs			memory			page				disk				faults				cpu			
	r	b	w	swap	free	re	mf	pi	po	fr	de	sr	s6	s9	s1	--	in	sy	cs	us	sy	id
0	0	0	0	437208	146424	0	1	4	0	0	0	0	0	1	0	0	50	65	79	0	1	99
0	0	0	0	413864	111056	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	198	137	214	0	3	97
0	0	0	0	413864	111056	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	286	101	200	0	3	97
0	0	0	0	413864	111072	0	11	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4294967216	43	68	0	0	100

回避策: vmstat コマンドを再実行します。

動的再構成: インタリーブ方式のメモリーを搭載した CPU/メモリーボードを構成解除できない (BugID 4210234)

インタリーブ方式のメモリーを搭載した CPU/メモリーボードを構成解除することはできません。

メモリーモジュール付き CPU ボードまたはメモリーボードに対して構成解除および切り離し操作を実行するには、まずメモリーを構成解除する必要があります。ただし現在のところ、ボード上のメモリーが他のボード上のメモリーとインタリーブされている場合は、メモリーを動的に構成解除することはできません。

システムでインタリーブ方式のメモリーを使用しているかどうかは、prtdiag コマンドまたは cfgadm コマンドで確認できます。

回避策: システムを停止してからボードの追加、交換を行い、その後再起動します。CPU/メモリーボードで DR 機能を利用できるようにするには、NVRAM の memory-interleave 変数を min に設定します。インタリーブ方式のメモリーについては、77 ページの「重大なリセット操作を実行後、メモリーが不適切にインタリーブされる (BugID 4156075)」も参照してください。

動的再構成: 固定メモリーを搭載した CPU/メモリーボードを構成解除できない (BugID 4210280)

メモリーモジュール付き CPU ボードまたはメモリーボードに対して構成解除および切り離し操作を実行するには、まずメモリーを構成解除する必要があります。ただし現在のところ、再配置不可能なメモリー (固定メモリー) もあります。

ボードに固定メモリーが搭載されている場合は、`cfgadm` コマンドによる状態表示では “permanent” と表示されます。

```
# cfgadm -s cols=ap_id:type:info
Ap_Id Type Information
ac0:bank0 memory slot3 64Mb base 0x0 permanent
ac0:bank1 memory slot3 empty
ac1:bank0 memory slot5 empty
ac1:bank1 memory slot5 64Mb base 0x40000000
```

上の例では、ボードの スロット 3 に固定メモリーが搭載されているので、このボードを取り外すことはできません。

回避策: システムを停止してからボードの追加、交換を行い、その後再起動します。

cfgadm コマンドを実行中、同時に別のボードに対して cfgadm による切り離し操作を実行できない (BugID 4220105)

あるボードに対して `cfgadm` コマンドを実行しているときに、同時に別のボードに対して `cfgadm` コマンドによる切り離し操作を実行しようとするとう失敗します。

つまり、異なるボードに対して同時に `cfgadm` コマンドを実行することはできません。この場合、以下のようなメッセージが表示されます。

```
cfgadm: Hardware specific failure: disconnect failed: nexus error
during detach: アドレス
```

回避策: 一度に実行する `cfgadm` 操作は 1 つだけにします。1 枚目のボードに対して `cfgadm` 操作を実行しているときは、その操作が終了してから 2 枚目のボードに対する切り離し操作を実行してください。

QFE カードのホストとなっている Sun Enterprise サーバーの ボードに対してドレイン操作または切り離し操作を行えない (BugID 4231845)

Solaris 2.5.1 ベースの Intel プラットフォームクライアント用起動サーバーとして構成されているサーバーは、クライアント装置が使用されているかどうかにかかわらず、いくつかの `rpld` ジョブが実行されています。そのため、DR 操作によってこれらの装置を切り離すことはできません。

回避策: DR による切り離し操作を実行するには、以下の手順を実行します。

1. /rplboot ディレクトリを削除するか、またはディレクトリ名を変更します。
2. 以下のコマンドを入力して、NFS サービスを停止します。

```
# sh /etc/init.d/nfs.server stop
```

3. DR による切り離し操作を実行します。
4. 以下のコマンドを入力して、NFS サービスを再起動します。

```
# sh /etc/init.d/nfs.server start
```


第7章

Sun Enterprise 10000 サーバーの制限事項

この章では、Sun Enterprise 10000 サーバー上で動作する SSP 3.5、動的再構成 (DR)、InterDomain Network (IDN)、および Solaris オペレーティング環境についてのリリース情報を説明します。

SSP 3.5 の実行時に予想される問題

実行時に予想される問題や解決されたバグなども含め、SSP 3.5 で改良された機能についての概要は、『SSP 3.5 インストールマニュアルおよびご使用の手引き』を参照してください。

次に示す SunSolve の Web サイトに SSP 3.5 に使用できる SSP パッチがないかを定期的に確認してください。

<http://sunsolve.Sun.com>

SSP ソフトウェアパッチをインストールする必要がある場合は、『SSP 3.5 インストールマニュアルおよびご使用の手引き』で説明しているように、必ずメイン SSP とスペア SSP の両方にパッチをインストールしてください。

注 – Solaris 8 HW 12/02 リリースでは、SSP パッチの 112178-01 が SSP 3.5 ソフトウェアに適用されていることに気をつけてください。このパッチはバグ 4505031 を修正するものであり、システムを Sun Enterprise 10000 サーバー上で動作する SSP として構成するかどうかを確認するプロンプトが繰り返し表示されます。このプロンプトは、Solaris オペレーティング環境をインストールすると表示されます。このパッチは、SSP 3.5 の基本的なソフトウェア機能には影響しません。

hpost の複数動作時に machine_server メモリーがリークする (BugID 4493987)

hpost 処理を複数実行すると、machine_server デーモンに関するメモリーがリークすることがあります。

回避策: SSP の性能がこのメモリーリークによる影響を受けている場合は、SSP デーモンをいったん停止し、再起動してください。スーパーユーザーでメイン SSP へログインし、以下のように入力します。

```
ssp# /etc/init.d/ssp stop
ssp# /etc/init.d/ssp start
```

showdevices がシステムボードのメモリーの基底アドレスを表示しない (BugID 4495747)

showdevices コマンドを実行すると、メモリーの基底アドレスに関して誤った情報が表示されます。BugID 4997243 も参照してください。

回避策: メモリーの基底アドレス情報を表示させる場合は、rcfgadm コマンドに -av オプションを付けて実行してください。

動的再構成 (DR)

この節のリリース情報およびその他の技術情報は、Solaris 8 2/02 の稼働する Sun Enterprise 10000 上の動的再構成 (DR) 機能だけに適用されます。

一般的な問題

この節では、Sun Enterprise 10000 サーバー上で動作する DR の一般的な問題について説明します。DR のインストールや構成を行う前に、この節を読んでおいてください。

DR と結合ユーザープロセス

Solaris 8 HW 12/02 では、DR は切り離された CPU とユーザープロセスとの結合解除を自動的に実行しません。ユーザーは、切り離し操作を初期化する前に、手動でこの操作を実行する必要があります。結合プロセスで CPU が検出されると、ドレイン操作が失敗します。

DR 操作時の `oprom_checknodeid()` に問題がある (BugID 4474330)

DR 切り離し操作後に `/dev/openprom` インタフェースが PROM デバイスツリーへアクセスすると、ご使用の環境によってはパニックが発生することがあります。openprom ドライバはノード情報をキャッシュに書き込んでいますが、その情報が DR 切り離し操作後に無効になる場合があります。その結果、誤ったノードアドレスが OpenBoot PROM に渡されることになります。

回避策: このような状態になる可能性を最小限に抑えるため、DR 切り離し操作の直前、直後、または操作中に `/dev/openprom` インタフェースを使用する `prtconf` などのアプリケーションは使用しないでください。また、`picld(1M)` も `/dev/openprom` ドライバを使用します。

QFE が DR を切り離した後再開できない (BugID 4499428)

Solaris オペレーティング環境が DR 操作によって休止して、`qfe` ドライバが中断すると、`qfe` ドライバを正常に再開できなくなる場合があります。この結果、ネットワーク接続が失われます。この条件が発生しても、ドメインには、SSP からネットワークコンソールを介して引き続きアクセスすることができます。

回避策: ネットワークコンソールから次に示す一連のコマンドを実行して、`qfe` デバイスをリセットしてください。

```
# ifconfig qfe_device down
# ifconfig qfe_device up
```

ここで、`qfe_device` は、`qfe0` などの影響を受けた `qfe` デバイスを示します。

DR 3.0 を使用可能にすると、特定の状態で余分なステップが必要になる (BugID 4507010)

ドメインで Solaris オペレーティング環境をアップグレードするか、または新規インストールを行ってから、SSP を SSP 3.5 にアップグレードすると、このドメインは DR 3.0 で正しく構成されません。

回避策: SSP が SSP 3.5 にアップグレードされた後で、スーパーユーザーとしてドメインに対して次のコマンドを実行してください。この対策は、ドメインで DR 3.0 を使用可能にするまでは必要ありません。

```
# devfsadm -i ngdr
```

InterDomain Networks (IDN)

一般的な問題

ドメインを IDN に接続する場合、そのドメインにあるボードのうち、メモリーが動作しているボードについては、動作中の CPU が少なくとも 1 つ必要です。

Solaris オペレーティング環境

この節には、Sun Enterprise 10000 サーバー上で動作する Solaris 8 HW 12/02 の一般的な問題、すでに報告されているバグや制限事項、パッチ、その他注意事項などが含まれています。

一般的な問題

Solaris 8 HW 12/02 では、Alternate Pathing (AP、代替パス)、Dynamic Reconfiguration (DR、動的再構成)、InterDomain Networks (IDN) がサポートされています。

注 – Sun Enterprise 10000 ドメイン上で DR モデル 3.0 を使用する場合は、そのドメインに Solaris 8 HW 12/02 オペレーティング環境を新規インストールまたはアップグレードする前に、System Service Processor 上に SSP 3.5 ソフトウェアをインストールしてください。SSP 3.5 は、Sun Enterprise 10000 ドメイン上で動作する Solaris 8 HW 12/02 オペレーティング環境をサポートしています。



注意 – Sun Enterprise 10000 ドメイン上に Solaris オペレーティング環境をインストールしたり、アップグレードする場合は、Solaris 8 HW 12/02 Installation CD を使用しないでください。『SSP 3.5 インストールマニュアルおよびご使用の手引き』で説明しているように、Solaris 8 HW 12/02 Software 1 of 2 CD でインストールを始めてください。

Solaris 8 HW 12/02 と起動ディスクパーティションのサイズ

Solaris 2.6 から Solaris 8 HW 12/02 環境へのアップグレードを行う場合、また『Solaris 2.6 対応 SMCC SPARC ハードウェアマニュアル』で説明されていたパーティション配置で Solaris 2.6 をインストールしてある場合は、パーティションがアップグレードに必要な十分な大きさでない場合があります。たとえば、/usr パーティションには少なくとも 653 MB の大きさが必要です。/usr パーティションがアップグレードに必要なサイズに満たない場合は、suninstall は DSR (Dynamic Space Reallocation) モードになり、ディスクパーティションの空き容量を再配置します。

DSR は、一部のシステムでは使用できないパーティション配置を算出する場合があります。たとえば、raw データや他のファイルシステムを含む、非 UFS パーティションなどを未使用パーティションとして DSR は使用しようとする場合があります。DSR が使用中のパーティションを選択した場合は、データは失われます。そのため、DSR を使用してパーティション配置を変更する場合は、ディスクの状況を十分把握してから処理を続行してください。

DSR がそのシステムで使用可能な配置を算出し、ユーザーが再配置の実行を選択すると、DSR は影響のあるファイルシステムを調整し、アップグレードを続行します。しかし、パーティションをシステムに適合した配置にできない場合は、起動デバイスを手動で配置し直すか、システムを新規インストールする必要があります。

OpenBoot PROM 変数

OpenBoot PROM プロンプト (ok) で boot net コマンドを実行する前には、必ず local-mac-address? 変数の値が、*false* (出荷時のデフォルト値) に設定されているかどうかを確認してください。この変数の値が *true* になっている場合は、値がローカルな構成に対して適切かどうかを確認してください。



注意 – local-mac-address? が *true* に設定されていると、ネットワーク上でのそのドメインの起動が妨げられる場合があります。

netcon(1M) ウィンドウでは、OpenBoot PROM プロンプトで以下のコマンドを使用して、OpenBoot PROM 変数の値を表示できます。

```
ok printenv
```

▼ local-mac-address? 変数を設定する

- この変数の値が true になっている場合は、setenv コマンドを使って false に設定変更します。

```
ok setenv local-mac-address? false
```

Sun Management Center ライセンス契約条項

最新ライセンス契約条項

ここでは、Sun Management Center 3.0 とその追加パッケージに関する最新のバイナリソフトウェアライセンス契約書について説明します。ここに記載する情報は、これ以前の Sun Management Center 3.0 のライセンス契約条項よりも優先されます。

Sun Management Center 3.0 および Sun Management Center 3.0 追加パッケージに関する Sun Microsystems Inc. バイナリソフトウェアライセンス契約書

- Sun Management Center 3.0 Advanced Systems Monitoring
- Sun Management Center 3.0 Premier Management Applications
- Sun Management Center 3.0 System Reliability Manager
- Sun Management Center 3.0 Service Availability Manager

サンは、本ライセンス契約書に記載されているすべての条項および条件にお客様が同意される場合に限り、お客様に対して、同梱されている機械可読形式のバイナリソフトウェアとそれに付属するマニュアル (以下、「ソフトウェア」と総称する) の使用权を許諾いたします。このソフトウェア製品のパッケージを開封する前に、本契約書の条項および条件をよくお読みください。ソフトウェア製品のパッケージを開封すると、本契約書の条項に同意したものとみなされます。電子的な手段でこのソフトウェアにアクセスしている場合は、本契約書の末尾にある「ACCEPT」ボタンを選択して同意してください。これらの条項に同意できない場合は、未使用のソフトウェアを購

入先にただちに返却し、代金の払い戻しを受けてください。電子的な手段でソフトウェアにアクセスしている場合は、本契約の末尾の「DECLINE」ボタンを選択してください。

Sun Management Center 3.0 追加パッケージソフトウェアの評価 (試用) の許諾。
Sun Management Center 3.0 Advanced Systems Monitoring、Sun Management Center 3.0 Premier Management Applications、Sun Management Center 3.0 System Reliability Manager、または Sun Management Center 3.0 Service Availability Manager (以下、各製品を「Sun Management Center 3.0 追加パッケージ」とする) に対して規定の使用料をお支払いいただいていない場合は、以下に記載するバイナリコードライセンス契約書 (以下「BCL」とする)、Sun Management Center 3.0 追加パッケージ補足条項 (以下「補足条項」とする)、および評価版に関する条項 (以下「評価版条項」とする) が、その Sun Management Center 3.0 追加パッケージに対して適用されます。使用料をお支払いいただいていない Sun Management Center 3.0 追加パッケージの使用承諾に関しては、BCL、補足条項、および評価版条項を総称して評価版契約書 (以下「評価版契約書」) と呼ぶものとします。

Sun Management Center 3.0 追加パッケージソフトウェアの使用の許諾 (購入)。
Sun Management Center 3.0 追加パッケージに対して規定の使用料をお支払いいただいた場合は、BCL と、BCL の次に記載されている Sun Management Center 3.0 追加パッケージ補足条項 (以下「補足条項」とする) が、その Sun Management Center 3.0 追加パッケージに適用されます。この Sun Management Center 3.0 追加パッケージの使用許諾に関しては、BCL および補足条項を総称して契約書 (以下「契約書」とする) と呼ぶものとします。

Sun Management Center 3.0 ソフトウェアの使用の許諾。 Sun Management Center 3.0 に関しては、BCL と、Sun Management Center 3.0 追加パッケージ補足条項の次に記載されている Sun Management Center 3.0 補足条項 (以下「補足条項」とする) が適用されるものとします。Sun Management Center 3.0 の使用承諾に関しては、BCL および Sun Management Center 3.0 補足条項を総称して契約書 (以下「契約書」) と呼ぶものとします。

評価版条項

ソフトウェアに対して規定の使用料をお支払いいただいていない場合は、評価版契約書の条項が適用されます。本評価版条項は、契約書の条項に追加または修正を加えるものです。本評価版条項に定義されていない用語は、以下の契約書、あるいはソフトウェアに含まれるライセンス契約条項における定義と同義です。

1. 評価の許諾。 サンはお客様に対し、お客様がお使いのシステムにソフトウェアをインストールした日付より 60 日間のみ (以下「評価期間」とする)、評価を目的として本ソフトウェアを社内で使用する、非独占的で譲渡不能な、無償かつ限定的な使用権を許諾します。その他のいかなる目的に対しても使用権は許諾されません。お客様は、ソフトウェアの全体あるいは一部を、いかなる第三者に対しても販売、賃借、貸与、もしくはその占有を移転または譲渡することはできません。お客様は、生産または商業的な目的のためにソフトウェアを使用する権利を有しないものとします。

2. **時限機構**。ソフトウェアには、時限機構が実装されている場合があります。お客様は、社内での評価以外の目的でのソフトウェアの使用に基づき、いかなる申し立ても、サンに対して行わないことに同意するものとします。

3. **契約の終了**。お客様は、評価期間の満了時には、サンにより事前に契約が終了された場合を除き、ただちにソフトウェアの使用を停止し、廃棄することに同意するものとします。

4. **サポート対象外**。サンには、ソフトウェアをサポートする義務、あるいはソフトウェアのアップグレードまたはエラー修正版（以下「ソフトウェアのアップデート版」とする）を提供する義務は一切ありません。サンがソフトウェアのアップデート版を独自の裁量で提供する場合には、ソフトウェアのアップデート版はソフトウェアの一部とみなされ、本契約書の条項が適用されます。

Sun Management Center 3.0 追加パッケージ補足ライセンス条項

本補足ライセンス条項（以下「補足条項」とする）はバイナリコードライセンス契約書の条項に追加するまたは修正を加えるものです（以下、「本契約書」と総称する）。この補足条項に定義されていない用語は、本契約書における定義と同義です。本補足条項は、本契約書またはソフトウェアに含まれている条項に、矛盾する条項または相反する条項があった場合には、そのすべてに優先します。

1. **商標およびロゴ**。お客様は、お客様とサンとの間では、サンが、Sun、Solaris、Java、Jini、Forte、および iPlanet の商標と、Sun、Solaris、Java、Jini、Forte、および iPlanet に関連するすべての商標、サービスマーク、ロゴ、その他のブランド名（以下「サンのマーク」とする）の所有者であることを認識し、同意するものとします。また、お客様は、現在 <http://www.sun.com/policies/trademarks> に掲載されている「Sun Trademark and Logo Usage Requirements（サンの商標およびロゴの使用に関する要求事項）」に従うことに同意するものとします。サンのマークを使用する場合は、サンの利益に貢献するものとします。

2. **ソースコード**。ソフトウェアには、本契約書の条項に基づき参照用にのみ提供されるソースコードが含まれる場合があります。

3. **権利侵害による終了**。ソフトウェアが何らかの知的所有権の侵害に関する訴訟の対象となった場合、またはいずれかの当事者がかかる対象となる可能性があると判断した場合には、いずれの当事者も本契約書を直ちに終了させることができます。

Sun Management Center 3.0 補足ライセンス条項

本補足条項（以下「補足ライセンス条項」とする）はバイナリコードライセンス契約書の条項に追加するものです（以下、「本契約書」と総称する）。バイナリコードライセンス契約書の第 1 条に定義されている通り、「ソフトウェア」には明示的に、Sun Management Center 3.0 ソフトウェアと iPlanet™ Web Server、FastTrack Edition、および Sun Management Center 3.0 に組み込まれている第三者の特定のソ

ソフトウェア製品が含まれます (ただしこれらに限定されません)。本補足ライセンス条項に定義されていない用語は、バイナリコードライセンス契約書における定義と同義です。本補足ライセンス条項は、バイナリコードライセンス契約書またはソフトウェアに記載されている条項に、矛盾する条項または相反する条項があった場合には、そのすべてに優先します。

1. iPlanet 製品の一般的な使用上の制限事項。 Sun Management Center 3.0 ソフトウェアにバンドルされている iPlanet Web Server は、Sun Management Center 3.0 ソフトウェアとの組み合わせでのみ使用することができます。Sun Management Center 3.0 にバンドルされている Web Server、またはバンドルされているその他の第三者のコンポーネントは、Sun Management Center 3.0 から切り離して単体で使用することはできません。

2. 第三者のデータベースソフトウェアの制限事項。 本ソフトウェアには、Solaris オペレーティングシステムサービス専用提供されている第三者のデータベースソフトウェアが組み込まれています。第三者のデータベースソフトウェアは、他の種類のデータ記憶領域の提供には使用できず、第三者のデータベースソフトウェアが提供するインタフェースも、第三者のアプリケーションからアクセスまたは使用することはできません。

3. 第三者のソフトウェア。 一部のソフトウェアには、対象ソフトウェアの使用を規定する他社の告知あるいはライセンスが、"Read-Me-License" などの名前の read-me ファイルに記載されて添付されています。

4. 商標およびロゴ。 お客様は、お客様とサンとの間では、サンが、Sun、Solaris、Java、Jini、Forte、および iPlanet の商標と、Sun、Solaris、Java、Jini、Forte、および iPlanet に関連するすべての商標、サービスマーク、ロゴ、その他のブランド名 (以下「サンのマーク」とする) の所有者であることを認識し、同意するものとします。また、お客様は、現在 <http://www.sun.com/policies/trademarks> に掲載されている「Sun Trademark and Logo Usage Requirements (サンの商標およびロゴの使用に関する要求事項)」に従うことに同意するものとします。サンのマークを使用する場合は、サンの利益に貢献するものとします。

5. ソースコード。 ソフトウェアには、本契約書の条項に基づき参照用のみ提供されるソースコードが含まれる場合があります。

6. 権利侵害による終了。 ソフトウェアが何らかの知的所有権の侵害に関する訴訟の対象となった場合、またはいずれかの当事者がかかる対象となる可能性があると判断した場合には、いずれの当事者も本契約書を直ちに終了させることができます。

お問合せ先 : Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054. (LFI#113569/Form ID#011801)

第9章

Solaris 8 HW 12/02 リリースに収録 されているリリース済みのパッチ

正式にリリースされている Solaris のパッチのうち、Solaris 8 HW 12/02 リリースに
修正版が収録されているものを以下に記載します。

Solaris 8 HW 12/02 パッチ

パッチ ID : 108825-01
キーワード : cfsadmin nsr cache cachefs
説明 : Obsoleted by: 110896-02 SunOS 5.8: /usr/lib/fs/cachefs/cfsadmin
patch

Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4207874

パッチ ID : 108972-04
キーワード : FAT32 create partition removable media fdisk zip eject remount
説明 : SunOS 5.8: /sbin/fdisk patch

Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4347145

パッチ ID : 108977-01
キーワード : libsmmedia removable media Jaz vtoc
説明 : SunOS 5.8: libsmmedia patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4292214 4308431 4311553

パッチ ID : 109027-01
キーワード : tasks projects extended accounting wracct
説明 : SunOS 5.8: /usr/bin/wracct patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4312278

パッチ ID : 109037-01
キーワード : tasks projects extended accounting ypnicknames
説明 : SunOS 5.8: /var/yp/Makefile and /var/yp/nicknames patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4312278

パッチ ID : 109043-02
キーワード : TPI M_PROTO connect T_DISCON_IND T_CONN_REQ
ECONNREFUSED
説明 : SunOS 5.8: sonode adb macro patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4322741

パッチ ID : 109068-01
キーワード : CDE japanese help update
説明 : CDE 1.4: Update Japanese help files
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4302904

パッチ ID : 109087-01
キーワード : atok8 libXm terminate
説明 : SunOS 5.8: atok8 terminates "Shell widget modeShell has zero..."
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4297016 4301750

パッチ ID : 109094-01
キーワード : localization update
説明 : SunOS 5.8: localization updates for dhcpmgr, SEAM & disksuite
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4332978

パッチ ID : 109128-01
キーワード : arabic encoding 1256 iso8859-6
説明 : SunOS 5.8: Provide conversion between codepages 1256 and
ISO8859-6

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4301870

パッチ ID : 109145-01

キーワード : in.routed logical interfaces loopback

説明 : SunOS 5.8: /usr/sbin/in.routed patch

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4319852

パッチ ID : 109152-01

キーワード : svctcp_create core malloc

説明 : SunOS 5.8: /usr/4lib/libc.so.1.9 and /usr/4lib/libc.so.2.9 patch

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4128267

パッチ ID : 109159-01

キーワード : Mapping, converting

説明 : SunOS 5.8: the mapping of zh_CN.euc%UTF-8 is consistent

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4337362 4334099

パッチ ID : 109167-01

キーワード : window list workspace manager removable media desktop help

説明 : CDE 1.4: Desktop Help Updates Patch

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4307183 4319636

パッチ ID : 109200-02

キーワード : localization updates

説明 : SunOS 5.8: l10n updates: Rem. Media, Window Mgr & Pam Proj

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4333002

パッチ ID : 109255-01

キーワード : dhcprmgr unlocalized buttons French

説明 : SunOS 5.8: Unlocalized buttons on user-interface of dhcprmgr

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4324315

パッチ ID : 109411-02

キーワード : dtmail print garbage japanese

説明 : SunOS 5.8: sdtname.dt and sdtprocess.dt japanese patch for sparc

Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4350277

パッチ ID : 109452-01
キーワード : Unlocalized buttons Sdtwinlst
説明 : SunOS 5.8: Window List, buttons unlocalized in Options dialog
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4329351

パッチ ID : 109454-01
キーワード : fifofs fifo_fastturnoff fifo_poll STREAM fifonode
説明 : SunOS 5.8: /kernel/fs/fifofs and /kernel/fs/sparcv9/fifofs patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4302216

パッチ ID : 109470-02
キーワード : DATA dtfile dat C locale messages substituted actions database
説明 : CDE 1.4: Actions Patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4353583

パッチ ID : 109552-01
キーワード : UTF-8 unlocalized removable media manager
説明 : SunOS 5.8: FIGSS-UTF.8, Removable media manager unlocalized
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4327983

パッチ ID : 109564-01
キーワード : Unlocalized error message German
説明 : SunOS 5.8: Removable Media Mgr, Missing floppy error unlocalized
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4329409

パッチ ID : 109568-03
キーワード : MOU3 sys-suspend speckeyisd
説明 : OpenWindows 3.6.2: sys-suspend need to support low power mode
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4361324

パッチ ID : 109573-01
キーワード : dhcparm graphics help
説明 : SunOS 5.8: dhcparm help graphics not displayed correctly

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4330902

パッチ ID : 109576-01

キーワード : parallel fscks ufs fsckall mountall

説明 : SunOS 5.8: mountall and fsckall patch

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4260430

パッチ ID : 109607-01

キーワード : MB_CUR_MAX stdlib_iso __ctype

説明 : Obsoleted by: 109607-02 SunOS 5.8:
/usr/include/iso/stdlib_iso.h patch

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4300780

パッチ ID : 109609-01

キーワード : UTF-8 Korean

説明 : SunOS 5.8: UTF-8 Korean attached text becomes garbled

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4309015

パッチ ID : 109618-01

キーワード : cde dtfile rmm removable media manager greek unicode utf-8
en_US.UTF-8

説明 : SunOS 5.8: en_US.UTF-8 locale patch

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4311444 4336840

パッチ ID : 109622-01

キーワード : zh_TW dtterm

説明 : SunOS 5.8: env LANG=zh_TW dtterm doesn't work in partial
zh_TW.UTF-8

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4330770

パッチ ID : 109642-01

キーワード : eject remount rmformat zip media dkio.h

説明 : SunOS 5.8: /usr/include/sys/dkio.h patch

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4304790

パッチ ID : 109727-01
キーワード : pmclient.jar printmgr null pointer
説明 : SunOS 5.8: /usr/sadm/admin/printmgr/classes/pmclient.jar patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4326665

パッチ ID : 109752-01
キーワード : UI admintool zh_TW.BIG5/zh_TW.UTF-8
説明 : SunOS 5.8: UI of admintool is lost in partial installation
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4347036

パッチ ID : 109755-01
キーワード : openwindows power management message japanese
説明 : OpenWindows 3.6.1: (japanese) update for power mgt util for s8u2
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4345748

パッチ ID : 109766-02
キーワード : JFP
説明 : SunOS 5.8: SUNWjxmft and SUNWjxcft patch for 8/10 dot font.
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4400714

パッチ ID : 109785-01
キーワード : inittab filetype
説明 : SunOS 5.8: /etc/inittab patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4273366

パッチ ID : 109803-01
キーワード : du size output
説明 : SunOS 5.8: /usr/bin/du and /usr/xpg4/bin/du patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4306228

パッチ ID : 109807-01
キーワード : dumpadm min% 4GB
説明 : SunOS 5.8: /usr/sbin/dumpadm patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4340246

パッチ ID : 109809-01
キーワード : timezone data Australasia
説明 : SunOS 5.8: timezone data patch for Australasia
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4313766

パッチ ID : 109813-01
キーワード : memory.h
説明 : SunOS 5.8: /usr/include/memory.h patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4313659

パッチ ID : 109862-01
キーワード : dumps core font server xfs zombie
説明 : Obsoleted by: 109862-03 X11 6.4.1 Font Server patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4335328 4336593 4314299 4335325 4323233 4345905

パッチ ID : 109872-01
キーワード : GSR simulation VIS
説明 : SunOS 5.8: vis driver patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4269556

パッチ ID : 109876-02
キーワード : floppy Super I/O dma_i8237A floppy
説明 : SunOS 5.8: fd driver patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4382509

パッチ ID : 109879-02
キーワード : isadma PCI
説明 : SunOS 5.8: isadma driver patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4358337

パッチ ID : 109881-02
キーワード : IEEE 1394 HCI1394_ISO_CTXT_BFFILL ixl1394_xmit_special panic
説明 : SunOS 5.8: 1394 adb macros patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4351774

パッチ ID : 109890-01
キーワード : pmserver.jar print manager
説明 : SunOS 5.8: pmserver.jar patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャ : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4308951

パッチ ID : 109892-03
キーワード : security ecpp printer device node type M_CTL cpr untimeout ECP
説明 : SunOS 5.8: /kernel/drv/ecpp driver patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャ : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4375134 4380979

パッチ ID : 109894-01
キーワード : security bpp logical device namespace printer nodetype
説明 : SunOS 5.8: /kernel/drv/sparcv9/bpp driver patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャ : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4309750

パッチ ID : 109902-03
キーワード : in.ndpd multipathing offlining IPMP
説明 : SunOS 5.8: /usr/lib/inet/in.ndpd patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャ : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4386544

パッチ ID : 109910-01
キーワード : CDE help volumes
説明 : CDE 1.3: help for Winlst, Rem. Media Mgr. & Workspace Mgr.
Sun OS リリース : 5.7
該当アーキテクチャ : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4329353 4339080 4329355

パッチ ID : 109926-02
キーワード : pem 3COM562 PCMCIA panic
説明 : SunOS 5.8: /kernel/drv/pem and /kernel/drv/sparcv9/pem patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャ : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4352663

パッチ ID : 109933-01
キーワード : mv hang page_lock
説明 : SunOS 5.8: mv, cp, ln patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャ : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4264701

パッチ ID : 109936-01
キーワード : diff case Swedish characters single-byte 8-bit Latin-1
説明 : SunOS 5.8: /usr/bin/diff patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4338744

パッチ ID : 109960-01
キーワード : input chinese remote textfield memory leak leaks
説明 : CDE 1.4: sdtperfmer patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4341412 4290470 4280252

パッチ ID : 109990-01
キーワード : dis v8plusb elf header
説明 : SunOS 5.8: /usr/ccs/bin/dis patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4015840 4350263

パッチ ID : 109994-01
キーワード : dis adb
説明 : SunOS 5.8: /usr/bin/sparcv7/adb and /usr/bin/sparcv9/adb patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4015840 4350263

パッチ ID : 110044-01
キーワード : zh.GBK iswalphalpha()
説明 : SunOS 5.8: iswalphalpha() can't work well in zh.GBK locale
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4355229

パッチ ID : 110065-01
キーワード : install update u2
説明 : SunOS 5.8: New features added to install
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4357775

パッチ ID : 110075-01
キーワード : security devinfo driver hardening
説明 : SunOS 5.8: /kernel/drv/devinfo and
/kernel/drv/sparcv9/devinfo patch

Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4341354

パッチ ID : 110274-03
キーワード : FIGGS Install New Features help
説明 : SunOS 5.8: Figgs Custom install new features and install help
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4367029

パッチ ID : 110320-01
キーワード : t1394_detach() s1394
説明 : SunOS 5.8: /kernel/misc/sparcv9/s1394 patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4362967

パッチ ID : 110326-02
キーワード : Screen savers LSARC TEC GWM Sdtwsm Stylemgr
説明 : CDE 1.4: dtstyle patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4389935 4384360 4319599 4382452 4392829 4390631

パッチ ID : 110364-02
キーワード : sdttypesbinder L10N
説明 : SunOS 5.8: Add L10N sdttypesbinder files
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4383627

パッチ ID : 110379-01
キーワード : littleneck gpio nexus
説明 : SunOS 5.8: littleneck support, gpio patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4339732 4336443 4341185

パッチ ID : 110381-01
キーワード : snapshots online ufsdump
説明 : SunOS 5.8: ufssnapshots support, clri patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4296770

パッチ ID : 110387-03
キーワード : security snapshots online ufsdump mmap
説明 : SunOS 5.8: ufssnapshots support, ufsdump patch

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4358666

パッチ ID : 110407-02

キーワード : Type editor CDE labels buttons file definition TCH SCH

説明 : CDE 1.4 Sdttypes patch

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4374350

パッチ ID : 110428-01

キーワード : Turkish UTF-8 L10N

説明 : SunOS 5.8: New Turkish UTF-8 locale

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4368177

パッチ ID : 110458-02

キーワード : security libcurses setupterm buffer overflow

説明 : SunOS 5.8: libcurses patch

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4398331

パッチ ID : 110461-01

キーワード : ttcompat cmn_err CE_PANIC

説明 : SunOS 5.8: ttcompat patch

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4335144

パッチ ID : 110603-01

キーワード : empty card file label open multiline note

説明 : CDE 1.4: sdtname patch

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4149628 4235799

パッチ ID : 110611-01

キーワード : lp.cat postio ECP

説明 : SunOS 5.8: lp.cat and postio ECP patch

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4366956 4375449

パッチ ID : 110670-01

キーワード : security gettext rcp

説明 : SunOS 5.8: usr/sbin/static/rcp patch

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4366956 4375449

パッチ ID : 110716-02

キーワード : product registry

説明 : SunOS 5.8: Solaris Product Registry 3.0 patch

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4407526

パッチ ID : 110724-01

キーワード : CTL layout bidi CDE performance

説明 : SunOS 5.8: liblayout patch

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4393355

パッチ ID : 110745-01

キーワード : Solaris Management Console European figss

説明 : SunOS 5.8: toolbox syntax correction

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4391812 4391778 4391779 4391781

パッチ ID : 110750-01

キーワード : tcx s24 window

説明 : SunOS 5.8: TCX Graphics Patch

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4349827

パッチ ID : 110752-01

キーワード : zh/zh_TW prodreg

説明 : SunOS 5.8: Uninstaller doesn't come up with error messages

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4389792

パッチ ID : 110754-03

キーワード : WBEM

説明 : SunOS 5.8: WBEM messages updates for Asian ko/zh/zh_TW locales

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4507096

パッチ ID : 110756-02

キーワード : DCL

説明 : SunOS 5.8: DCL messages updates for Asian ko/zh/zh_TW locales

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4404182 4507099

パッチ ID : 110758-03

キーワード : SMC

説明 : SunOS 5.8: SMC messages updates for Asian ko/zh/zh_TW locales

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4507101

パッチ ID : 110766-03

キーワード : JFP mp

説明 : SunOS 5.8: SUNW0mp update

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー :

このパッチで修正されるバグ ID :4472652

パッチ ID : 110811-01

キーワード : library versioning libnls appcert

説明 : SunOS 5.8: libnls patch

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4346460

パッチ ID : 110815-01

キーワード : library versioning libmp appcert

説明 : SunOS 5.8: libmp patch

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4346496

パッチ ID : 110822-01

キーワード : mboxsc platform

説明 : SunOS 5.8: mboxsc driver patch

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4363907

パッチ ID : 110823-03

キーワード : fcode platform

説明 : SunOS 5.8: fcode patch

Sun OS リリース : 5.8

該当アーキテクチャー : sparc

このパッチで修正されるバグ ID :4411034

パッチ ID : 110824-02

キーワード : fcpci platform

説明 : SunOS 5.8: fcpci driver patch

Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4405109

パッチ ID : 110825-02
キーワード : fcodem platform
説明 : SunOS 5.8: fcodem driver patch

Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4405109

パッチ ID : 110831-02
キーワード : cvc platform ioctls
説明 : SunOS 5.8: /platform/SUNW,Sun-Fire-15000/kernel/drv/sparcv9/cvc patch

Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc?
このパッチで修正されるバグ ID :4370761 4396065

パッチ ID : 110832-01
キーワード : cvcredir platform
説明 : SunOS 5.8: cvcredir patch

Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4363907

パッチ ID : 110837-03
キーワード : efcoder fcdriver fcode fcpackage fcthread interpreter
説明 : SunOS 5.8: efcoder patch

Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4393561 4393772 4398474

パッチ ID : 110841-01
キーワード : new platform gptwo
説明 : SunOS 5.8: gptwo patch

Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4369175 4381743

パッチ ID : 110848-02
キーワード : new platform pcicfg
説明 : SunOS 5.8: pcicfg patch

Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4405109

パッチ ID : 110864-01
キーワード : Thai upgrade
説明 : SunOS 5.8: SUNW_PKGLIST fixes (ALC S8U4 packages for SUNWCreq)

Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4402062

パッチ ID : 110867-01
キーワード : 64bit upgrade SUNW_PKGLIST
説明 : SunOS 5.8: SUNW_PKGLIST fixes (ALC S8U4 packages)

Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4399082

パッチ ID : 110885-01
キーワード : JFP product registry
説明 : SunOS 5.8: JFP Solaris Product Registry 3.0 patch

Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4405721

パッチ ID : 110888-01
キーワード : New translations
説明 : SunOS 5.8 : figgs, New and updated message strings

Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4406660 4407100

パッチ ID : 110896-01
キーワード : mount point cacheofs
説明 : Obsoleted by: 110896-02 SunOS 5.8: /usr/lib/fs/cacheofs/mount patch

Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4332446

パッチ ID : 110901-01
キーワード : sgen hang USCSI
説明 : SunOS 5.8: /kernel/drv/sgen and /kernel/drv/sparcv9/sgen patch

Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4319695 4325990

パッチ ID : 110907-01
キーワード : UNIX98 inet.h in6_addr
説明 : SunOS 5.8: /usr/include/arpa/inet.h patch

Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4345816

パッチ ID : 110910-01
キーワード : fsck user confirmation
説明 : SunOS 5.8: /usr/lib/fs/ufs/fsck patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4225018

パッチ ID : 110914-01
キーワード : tr core options
説明 : SunOS 5.8: /usr/bin/tr patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4366964

パッチ ID : 110939-01
キーワード : closewtmp utmpx wtmpx
説明 : SunOS 5.8: /usr/lib/acct/closewtmp patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4352064

パッチ ID : 110943-01
キーワード : security tcsh here documents tmpfiles
説明 : SunOS 5.8: /usr/bin/tcsh patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4384076

パッチ ID : 111071-01
キーワード : security cu uucp
説明 : SunOS 5.8: cu patch
Sun OS リリース : 5.8
該当アーキテクチャー : sparc
このパッチで修正されるバグ ID :4406722